イベントとアラートの管理

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/events/concept_what_active_iq_platform_events_are.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

イベントとアラートの管理 1
イベントを管理する 1
Active IQ Unified Manager の Active IQ プラットフォームイベントについて 1
イベント管理システム イベントとは 1
Active IQ Unified Manager が受信したイベントを処理する方法を理解する 6
Active IQ Unified Manager でイベントの詳細を表示する 7
Active IQ Unified Manager で未割り当てイベントを表示する 8
Active IQ Unified Manager でイベントを確認して解決する 8
Active IQ Unified Manager で特定のユーザーにイベントを割り当てる 9
Active IQ Unified Manager で不要なイベントを無効にする 10
Active IQ Unified Manager の自動修復を使用して問題を修正する 11
Active IQ Unified Manager で Active IQ イベントレポートを有効化および無効化する 12
Active IQ Unified Manager で新しい Active IQ ルールファイルをアップロードする 13
Active IQ Unified Manager が Active IQ プラットフォームイベントを生成する仕組み 14
Active IQ Unified Manager で Active IQ プラットフォームイベントを解決する 14
Active IQ Unified Manager でイベント保持設定を構成する 15
Unified Manager のメンテナンスウィンドウとは 15
Active IQ Unified Manager でホストシステムリソースイベントを管理する 18
イベントの詳細を理解する 18
イベントおよび重大度タイプのリスト 23
イベントのウィンドウとダイアログ ボックスの説明 75
アラートを管理する 88
Active IQ Unified Manager のアラートについて 88
Active IQ Unified Manager アラートメールに含まれる情報 88
アラートの追加 89
Active IQ Unified Manager でパフォーマンス イベントのアラートを追加する 92
Active IQ Unified Manager でのテストアラート 93
Active IQ Unified Manager で解決済みおよび廃止されたイベントのアラートを無効にする 93
Active IQ Unified Manager でディザスタリカバリ先ボリュームをアラート生成対象から除外する 94
Active IQ Unified Manager でアラートを表示する 95
Active IQ Unified Manager でアラートを編集する 95
Active IQ Unified Manager でアラートを削除する 95
アラートのウィンドウとダイアログ ボックスの説明 96
スクリプトを管理する 102
Active IQ Unified Manager でスクリプトを管理する 102
Active IQ Unified Manager でスクリプトがアラートと連携する仕組み 102
Active IQ Unified Manager でスクリプトを追加する 103
Active IQ Unified Manager でスクリプトを削除する 104
Active IQ Unified Manager でのテストスクリプトの実行 104

サポートされている Active IQ Unified Manager CLI コマンドについて学ぶ 105
スクリプトのウィンドウとダイアログ ボックスの説明 112

イベントとアラートの管理

イベントを管理する

Active IQ Unified Manager の **Active IQ** プラットフォームイベントについて

Unified Managerでは、Active IQプラットフォームで検出されたイベントを表示できます。これらのイベントは、Unified Managerで監視しているすべてのストレージ システムから生成されたAutoSupportメッセージに対して一連のルールを実行することによって作成されます。

詳細については、"Active IQプラットフォーム イベントの生成方法"を参照してください。

Unified Managerは、新しいルール ファイルの有無を自動的にチェックし、ある場合にのみ新しいファイルをダウンロードします。外部へのネットワーク アクセスがないサイトでは、ストレージ管理 > イベント設定 > ルールのアップロード からルールを手動でアップロードする必要があります。

これらのActive IQのイベントは、Unified Managerの既存のイベントとは重複せず、システム構成、ケーブル配線、ベストプラクティス、および可用性の問題に関連するインシデントやリスクを特定します。

プラットフォームイベントの有効化の詳細については、"Active IQポータル イベントの有効化" を参照してください。ルールファイルのアップロードの詳細については、"新しいActive IQルール ファイルのアップロード" を参照してください。

NetApp Active IQは、NetAppハイブリッドクラウド全体のストレージシステム運用を最適化するために、予測分析とプロアクティブなサポートを提供するクラウドベースのサービスです。詳細については、 "NetApp Active IQ"を参照してください。

イベント管理システム イベントとは

Active IQ Unified Manager のイベント管理システムのイベントについて

Event Management System（EMS;イベント管理システム）では、ONTAPカーネルのさまざまな部分からイベント データが収集され、イベント転送のメカニズムが提供されます。これらのONTAPイベントは、Unified ManagerでEMSイベントとして報告できます。一元的な監視と管理により、重要なEMSイベントの設定や、これらのEMSイベントに基づくアラート通知の設定が容易になります。

Unified Managerにクラスターを追加すると、Unified Managerのアドレスがクラスターの通知先として追加されます。EMSイベントは、クラスター内でイベントが発生するとすぐに報告されます。

Unified Manager で EMS イベントを受信する方法は 2 つあります。

- 一定数の重要なEMSイベントは自動的に報告されます。
- EMSイベントを受け取るように個別に登録することができます。

Unified Managerによって生成されるEMSイベントは、イベントが生成された方法によって報告方法が異なります。

機能	自動**EMS**メッセージ	購読済み**EMS**メッセージ
使用可能なEMSイベント	一部のEMSイベント	すべてのEMSイベント
EMSメッセージがトリガーされたときの名前	Unified Manager イベント名（EMS イベント名から変換）	固有でない「エラーの EMS を受信」の形式。詳細なメッセージに実際のEMSイベントをドット表記の形式で記載
メッセージの受信	クラスタの検出後すぐ	必要な EMS イベントをそれぞれ Unified Manager に追加した後、次の 15 分間隔のポーリングサイクルが経過した後
イベントのライフサイクル	他の Unified Manager イベントと同様：新規、承認済み、解決済み、廃止済み状態	EMSイベントはクラスタが更新されると廃止になる（イベントが作成されてから15分後）
Unified Managerのダウンタイム中に発生したイベントをキャプチャします。	システムの起動時に各クラスタと通信して不足しているイベントを取得	×
イベントの詳細	推奨される対処方法をONTAPから直接インポートして一貫した解決策を提示	イベント詳細ページでは修正措置は利用できません

新しい自動EMSイベントの中には、以前のイベントが解決されたことを示す情報イベントが含まれています。たとえば、「FlexGroup コンスティチュエントのスペース ステータスがすべて正常」情報イベントは、「FlexGroup コンスティチュエントのスペースに問題あり」エラー イベントが解決されたことを示します。情報イベントは、他のイベントの重要度タイプと同じイベントライフサイクルを使用して管理することはできませんが、同じボリュームが別の「`Space Issues`」エラーイベントを受信すると、イベントは自動的に廃止されます。

Active IQ Unified Manager に自動的に追加される **EMS** イベント

Unified Managerには次のONTAP EMSイベントが自動的に追加されます。これらのイベントは、Unified Managerが監視しているいずれかのクラスタでトリガーされると生成されます。

ONTAP 9.5以降のソフトウェアを実行しているクラスタの監視では、次のEMSイベントを使用できます。

Unified Manager イベント名	**EMS**イベント名	影響を受けるリソース	**Unified Manager**の重大度
アグリゲートの再配置でクラウド階層へのアクセス拒否	arl.netra.ca.check.failed	Aggregate	エラー
ストレージ フェイルオーバー時のアグリゲートの再配置でクラウド階層へのアクセス拒否	gb.netra.ca.check.failed	Aggregate	エラー

Unified Manager イベント名	**EMS**イベント名	影響を受けるリソース	**Unified Manager**の重大度
FabricPool のミラー レプリケーションの再同期が完了	wafl.ca.resync.complete	クラスタ	エラー
FabricPool スペースがほぼフル	fabricpool.nearly.full	クラスタ	エラー
NVMF の猶予期間 - 開始	nvmf.graceperiod.start	クラスタ	警告
NVMF の猶予期間 - アクティブ	nvmf.graceperiod.active	クラスタ	警告
NVMF の猶予期間 - 終了	nvmf.graceperiod.expired	クラスタ	警告
LUN を破棄	lun.destroy	LUN	情報
Cloud AWS メタデータ接続エラー	cloud.aws.metadataConnFail	ノード	エラー
Cloud AWS IAM クレデンシャルが期限切れ	cloud.aws.iamCredsExpired	ノード	エラー
Cloud AWS IAM クレデンシャルが無効	cloud.aws.iamCredsInvalid	ノード	エラー
Cloud AWS IAM クレデンシャルが見つからない	cloud.aws.iamCredsNotFound	ノード	エラー
Cloud AWS IAM クレデンシャルが初期化されていない	cloud.aws.iamNotInitialized	ノード	情報
Cloud AWS IAM ロールが無効	cloud.aws.iamRoleInvalid	ノード	エラー
Cloud AWS IAM ロールが見つからない	cloud.aws.iamRoleNotFound	ノード	エラー
クラウド階層のホスト解決不可	objstore.host.unresolvable	ノード	エラー
クラウド階層のクラスタ間ネットワーク インターフェイスが停止	objstore.interclusterlifDown	ノード	エラー
要求とクラウド階層シグネチャの不一致	osc.signatureMismatch	ノード	エラー
NFSv4 プールの 1 つに空きなし	Nblade.nfsV4PoolExhaustを使用したチャンク アップロード署名要求がサポートされるようになりました。	ノード	重大
QoS 監視メモリの最大化	qos.monitor.memory.maxed	ノード	エラー
QoS 監視メモリの縮小	qos.monitor.memory.abated	ノード	情報

Unified Manager イベント名	**EMS**イベント名	影響を受けるリソース	**Unified Manager**の重大度
NVMe ネームスペースの破棄	NVMeNS.destroy	ネームスペース	情報
NVMe ネームスペース オンライン	NVMeNS.offline	ネームスペース	情報
NVMe ネームスペース オフライン	NVMeNS.online	ネームスペース	情報
NVMe ネームスペース スペース不足	NVMeNS.out.of.space	ネームスペース	警告
同期レプリケーションが同期されていない	sms.status.out.of.sync	SnapMirror関係	警告
同期レプリケーションをリストア	sms.status.in.sync	SnapMirror関係	情報
同期レプリケーションの自動再同期失敗	sms.resync.attempt.failed	SnapMirror関係	エラー
多数の CIFS 接続	Nblade.cifsManyAuths	SVM	エラー
最大 CIFS 接続数を超過	Nblade.cifsMaxOpenSameFile	SVM	エラー
ユーザあたりの最大 CIFS 接続数を超過	Nblade.cifsMaxSessPerUsrConn	SVM	エラー
CIFS NetBIOS 名が競合	Nblade.cifsNbNameConflict	SVM	エラー
存在しない CIFS 共有に対する試行	Nblade.cifsNoPrivShare	SVM	重大
CIFS シャドウ コピー処理が失敗	cifs.shadowcopy.failure	SVM	エラー
AV サーバがウィルスを検出	Nblade.vscanVirusDetected	SVM	エラー
ウィルス スキャン用の AV サーバ接続がない	Nblade.vscanNoScannerConn	SVM	重大
AV サーバが未登録	Nblade.vscanNoRegdScanner	SVM	エラー
応答する AV サーバ接続がない	Nblade.vscanConnInactive	SVM	情報
AV サーバがビジーのため新しいスキャン要求の受け入れ不可	Nblade.vscanConnBackPressure	SVM	エラー
権限のないユーザが AV サーバへのアクセスを試行	Nblade.vscanBadUserPrivAccess	SVM	エラー

Unified Manager イベント名	**EMS**イベント名	影響を受けるリソース	**Unified Manager**の重大度
FlexGroup コンスティチュエントのスペースに問題あり	flexgroup.constituents.have.space.issues	Volume	エラー
FlexGroup コンスティチュエントのスペース ステータスがすべて正常	flexgroup.constituents.space.status.all.ok	Volume	情報
FlexGroup コンスティチュエントの inode に問題あり	flexgroup.constituents.have.inodes.issues	Volume	エラー
FlexGroup コンスティチュエントの inode ステータスがすべて正常	flexgroup.constituents.inodes.status.all.ok	Volume	情報
ボリューム論理スペースがほぼフル	monitor.vol.nearFull.inc.sav	Volume	警告
ボリューム論理スペースがフル	monitor.vol.full.inc.sav	Volume	エラー
ボリューム論理スペースが正常	monitor.vol.one.ok.inc.sav	Volume	情報
WAFL ボリュームのオートサイズが失敗	wafl.vol.autoSize.fail	Volume	エラー
WAFL ボリュームのオートサイズ完了	wafl.vol.autoSize.done	Volume	情報
WAFL READDIR ファイル処理タイムアウト	wafl.readdir.expired	Volume	エラー

Active IQ Unified Manager で **ONTAP EMS** イベントをサブスクライブする

ONTAPソフトウェアがインストールされているシステムで生成されたEvent Management System（EMS;イベント管理システム）イベントを受け取るように登録することができます。一部のEMSイベントはUnified Managerに自動的に報告されますが、それ以外のEMSイベントは登録している場合にのみ報告されます。

開始する前に

同じ問題に対するイベントを2つ受け取って混乱を招く可能性があるため、Unified Managerにすでに自動的に追加されているEMSイベントは登録しないでください。

EMSイベントはいくつでも登録できます。登録したすべてのイベントが検証され、検証済みのイベントだけがUnified Managerで監視しているクラスタに適用されます。_ONTAP 9 EMSイベントカタログ_は、指定されたバージョンのONTAP 9ソフトウェアのすべてのEMSメッセージに関する詳細情報を提供します。該当するイベントの一覧については、ONTAP 9製品ドキュメントページから適切なバージョンの_EMSイベントカタログ_を参照してください。

"ONTAP 9製品ライブラリ"

登録したONTAP EMSイベントにアラートを設定したり、それらのイベントに対して実行するカスタム スクリプトを作成したりできます。

> 登録したONTAP EMSイベントが届かない場合は、クラスタのDNS設定に問題があり、クラスタからUnified Managerサーバに到達できなくなっていることが考えられます。その場合は、クラスタ管理者がクラスタのDNS設定を修正し、Unified Managerを再起動する必要があります。これにより、保留中のEMSイベントがUnified Managerサーバに送信されます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 > イベント設定 をクリックします。
2. イベント設定ページで、*EMSイベントを購読する*ボタンをクリックします。
3. [EMSイベントにサブスクライブ]ダイアログ ボックスで、登録するONTAP EMSイベントの名前を入力します。

   購読できる EMS イベントの名前を表示するには、ONTAP クラスターシェルから `event route show`コマンド（ONTAP 9 より前）または `event catalog show`コマンド（ONTAP 9 以降）を使用できます。

   "Active IQ Unified ManagerでONTAP EMSイベント サブスクリプションを設定してアラートを受信する方法"

4. *[追加]*をクリックします。

   EMSイベントは「購読済みEMSイベント」リストに追加されますが、「適用対象クラスタ」列には、追加したEMSイベントのステータスが「`Unknown`」と表示されます。

5. *保存して閉じる*をクリックして、EMSイベントのサブスクリプションをクラスターに登録します。
6. 「EMSイベントを購読する」をもう一度クリックしてください。

   追加したEMSイベントの「適用対象クラスタ」列に「`Yes`」というステータスが表示されます。

   ステータスが「`Yes`」でない場合は、ONTAP EMSイベント名のスペルを確認してください。名前が正しく入力されていない場合は、誤ったイベントを削除してから、再度イベントを追加する必要があります。

ONTAP EMSイベントが発生すると、そのイベントが[イベント]ページに表示されます。イベントを選択すると、EMSイベントに関する詳細を[イベントの詳細]ページで確認できます。イベントの処理を管理したり、イベントのアラートを作成したりすることもできます。

Active IQ Unified Manager が受信したイベントを処理する方法を理解する

Unified Managerで受信したイベントは、[ダッシュボード]ページ、[イベント管理]インベントリ ページ、[クラスタ / パフォーマンス]ページの[サマリ]タブと[エクスプローラ]タブ、およびオブジェクトごとのインベントリ ページ（[ボリューム / 健全性]インベントリ ページなど）に表示されます。

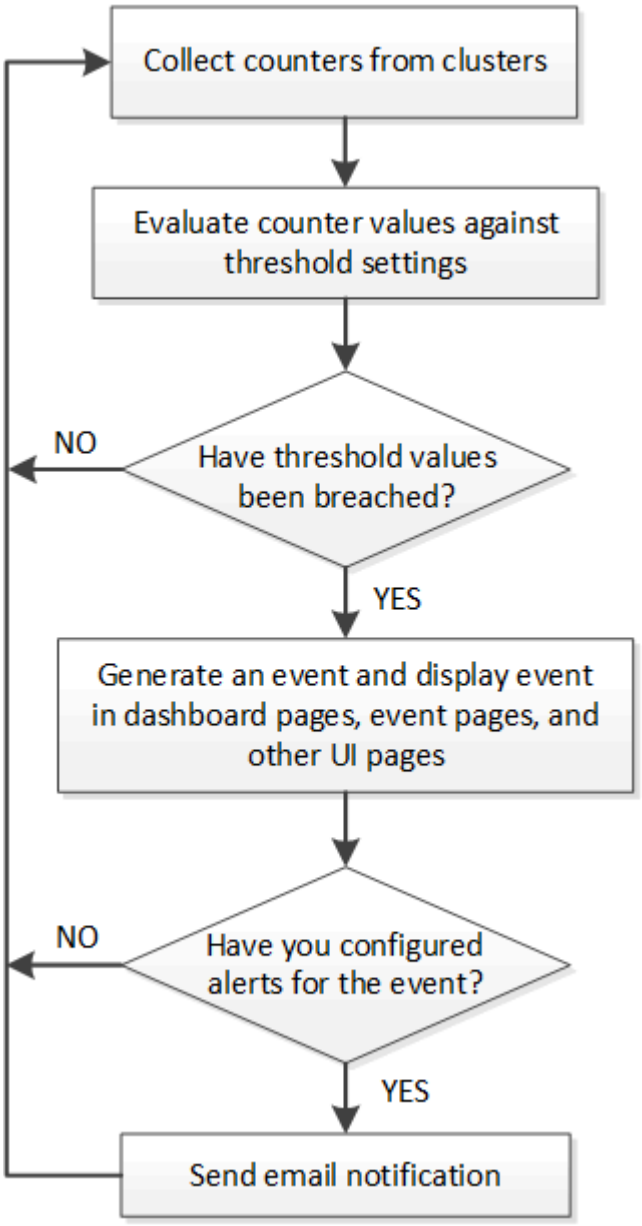
Unified Manager は、同じクラスタ コンポーネントに対して同じイベント条件が複数回連続して発生したことを検出した場合、それらを個別のイベントとしてではなく、単一のイベントとして扱います。イベントの継続時間は、イベントがまだ進行中であることを示すために増加します。

[アラート セットアップ]ページの設定に応じて、イベントを他のユーザに通知することができます。アラート

により、次の処理が開始されます。

- イベントに関するメールは、すべての Unified Manager 管理者ユーザーに送信できます。
- イベントを追加のEメール受信者に送信できます。
- SNMPトラップをトラップ レシーバに送信できます。
- 処理を実行するカスタム スクリプトを実行できます。

このワークフローを次の図に示します。



Active IQ Unified Manager でイベントの詳細を表示する

Unified Managerがトリガーするイベントに関する詳細を表示して、そのイベントに対処することができます。たとえば、健全性イベントである「ボリュームはオフライン」が発生した場合は、そのイベントをクリックして詳細を表示し、対処方法を実行することができます。

開始する前に

オペレータ、アプリケーション管理者、またはストレージ管理者のロールが必要です。

イベントの詳細には、イベントのソース、イベントの原因、イベントに関連するメモなどの情報が含まれます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、*イベント管理*をクリックします。

   デフォルトでは、[アクティブなすべてのイベント]ビューが表示されます。このビューには、過去7日間に生成された「新規」と「確認済み」のイベント（アクティブなイベント）で影響レベルが「インシデント」または「リスク」のイベントが表示されます。

2. 特定のカテゴリのイベント（たとえば、容量イベントやパフォーマンスイベントなど）を表示する場合は、「表示」をクリックし、イベントタイプのメニューから選択してください。
3. 詳細を表示するイベントの名前をクリックします。

   [イベントの詳細]ページにイベントの詳細が表示されます。

Active IQ Unified Manager で未割り当てイベントを表示する

未割り当てのイベントを表示して、各イベントを解決できるユーザに割り当てることができます。

開始する前に

オペレータ、アプリケーション管理者、またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、*イベント管理*をクリックします。

   [イベント管理]インベントリ ページには、デフォルトでは新規と確認済みのイベントが表示されます。

2. 「フィルター」ペインの「担当者」領域で、「未割り当て」フィルターオプションを選択します。

Active IQ Unified Manager でイベントを確認して解決する

イベントを生成した問題に対処する前に、アラート通知が繰り返し送信されないようにイベントに確認応答する必要があります。特定のイベントに対処したら、そのイベントを解決済みとしてマークします。

開始する前に

オペレータ、アプリケーション管理者、またはストレージ管理者のロールが必要です。

同時に複数のイベントに確認応答して解決することができます。

情報イベントに確認応答することはできません。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、*イベント管理*をクリックします。
2. イベントのリストで、次のいずれかを実行してイベントに応答します。

状況	操作
単一のイベントに確認応答して解決済みとしてマークする	a. イベント名をクリックします。 b. [イベントの詳細]ページで、イベントの原因を特定します。 c. *Acknowledge*をクリックします。 d. 適切な方法で対処します。 e. 解決済みとしてマーク をクリックします。
複数のイベントに確認応答して解決済みとしてマークする	a. それぞれの[イベントの詳細]ページで、イベントの原因を特定します。 b. イベントを選択します。 c. *Acknowledge*をクリックします。 d. 適切な方法で対処します。 e. 解決済みとしてマーク をクリックします。

解決済みとしてマークされたイベントは、解決済みイベントのリストに移動します。

3. オプション：*メモと更新*エリアに、イベントへの対応方法に関するメモを追加し、*投稿*をクリックします。

Active IQ Unified Manager で特定のユーザーにイベントを割り当てる

未割り当てのイベントを自分や他のユーザ（リモート ユーザも含む）に割り当てることができます。必要に応じて、割り当てられたイベントを別のユーザに再割り当てすることもできます。たとえば、ストレージ オブジェクトで頻繁に問題が発生する場合、そのオブジェクトを管理するユーザにそれらの問題に対するイベントを割り当てることができます。

開始する前に

- ユーザの名前とEメールIDが正しく設定されている必要があります。
- オペレータ、アプリケーション管理者、またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、*イベント管理*をクリックします。
2. 「イベント管理」インベントリページで、割り当てたいイベントを1つ以上選択します。
3. 次のいずれかを実行してイベントを割り当てます。

イベントを...に割り当てたい場合は...	操作
自分	**[割り当て先] > [自分]** をクリックします。

イベントを...に割り当てたい場合は...	操作
別のユーザ	a. 割り当て先 ＞ 別のユーザー をクリックします。 b. [所有者の割り当て]ダイアログ ボックスで、ユーザの名前を入力するか、ユーザをドロップダウン リストから選択します。 c. 割り当て をクリックします。 ユーザにEメール通知が送信されます。 ユーザー名を入力せず、またはドロップダウンリストからユーザーを選択せずに、*割り当て*をクリックすると、イベントは未割り当てのままになります。

Active IQ Unified Manager で不要なイベントを無効にする

デフォルトでは、すべてのイベントが有効になっています。環境で重要でないイベントについては、グローバルに無効にして通知が生成されないようにすることができます。無効にしたイベントの通知を再開するときは、それらのイベントを有効にできます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

イベントを無効にすると、システムで以前に生成されたイベントは「廃止」とマークされ、それらのイベントに設定されたアラートはトリガーされなくなります。無効にしたイベントを有効にすると、それらのイベントの通知の生成が次の監視サイクルから再開されます。

オブジェクトのイベントを無効にし（たとえば、 `vol offline`イベント）、その後イベントを有効にした場合、イベントが無効な状態のときにオフラインになったオブジェクトに対して、Unified Manager は新しいイベントを生成しません。Unified Manager は、イベントが再度有効化された後にオブジェクトの状態が変更された場合にのみ、新しいイベントを生成します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ イベント設定 をクリックします。
2. 「イベント設定」ページで、以下のいずれかのオプションを選択して、イベントを無効または有効にします。

状況	操作
イベントを無効にする	a. **Disable** をクリックします。 b. [イベントの無効化]ダイアログ ボックスで、イベントの重大度を選択します。 c. [一致イベント]列で、イベントの重大度に基づいて無効にするイベントを選択し、右矢印をクリックして[イベントの無効化]列に移動します。 d. 「保存して閉じる」をクリックします。 e. 無効にしたイベントが[イベント セットアップ]ページのリスト ビューに表示されていることを確認します。
イベントを有効にする	a. 有効にするイベントのチェック ボックスをオンにします。 b. * Enable * をクリックします。

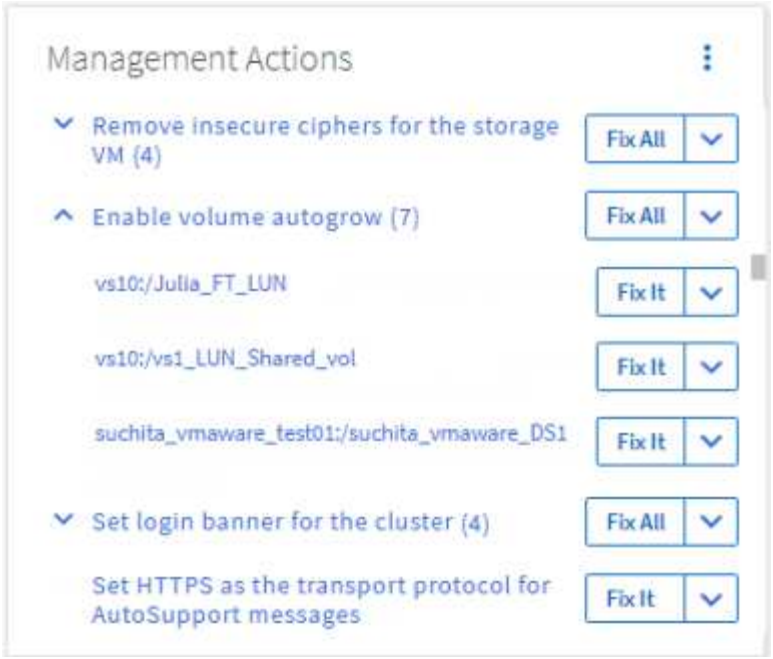
Active IQ Unified Manager の自動修復を使用して問題を修正する

Unified Managerは、特定のイベントを徹底的に診断し、*Fix It*ボタンを使用して単一の解決策を提供することができます。利用可能な場合、これらの解決策はダッシュボード、イベント詳細ページ、および左側のナビゲーションメニューのワークロード分析選択画面に表示されます。

ほとんどのイベントにはさまざまな解決策があり、イベントの詳細ページに表示されるため、ONTAP System ManagerまたはONTAP CLIを使用して最適な解決策を実行できます。Unified Managerが、問題を解決するための解決策が1つだけであり、ONTAP CLIコマンドを使用して解決できると判断した場合、*Fix It*アクションが利用可能になります。

手順

1. **Dashboard** から修正可能なイベントを表示するには、**Dashboard** をクリックします。



2. Unified Managerで解決できる問題に対処するには、*Fix It*ボタンをクリックします。複数のオブジェクトに存在する問題を修正するには、*Fix All*ボタンをクリックします。

自動修復で解決できる問題については、"Unified Managerで解決可能な問題"を参照してください。

Active IQ Unified Manager で Active IQ イベントレポートを有効化および無効化する

Active IQプラットフォーム イベントは、デフォルトで生成されてUnified Managerユーザ インターフェイスに表示されます。作業の邪魔な場合、またはUnified Managerに表示したくない場合は、これらのイベントが生成されないようにすることができます。後日これらの通知の受信を再開する場合は再び有効にできます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

この機能を無効にすると、Unified ManagerはActive IQプラットフォーム イベントの受信をただちに停止します。

この機能を有効にすると、クラスタのタイムゾーンの午前0時を過ぎにUnified ManagerはActive IQプラットフォーム イベントの受信を開始します。開始時刻は、Unified Managerがいつ各クラスタからAutoSupportメッセージを受信したかによって決まります。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、**General** > **Feature Settings** をクリックします。
2. *機能設定*ページで、次のいずれかのオプションを選択して Active IQ プラットフォームイベントを無効または有効にします：

状況	操作
Active IQプラットフォーム イベントを無効にする	**Active IQ Portal Events** パネルで、スライダーボタンを左に移動します。

状況	操作
Active IQプラットフォーム イベントを有効にする	**Active IQ Portal Events** パネルで、スライダーボタンを右に移動します。

Active IQ Unified Manager で新しい **Active IQ** ルールファイルをアップロードする

Unified Managerは、新しいActive IQイベント（ルール）ファイルの有無を自動的にチェックし、ある場合は新しいファイルをダウンロードします。ただし、外部ネットワークへのアクセスがないサイトでは、ルール ファイルを手動でアップロードする必要があります。

Active IQルールは、Config Advisor（CA）セキュア ルールとも呼ばれます。

ネットワークに接続されていないサイトでUnified Managerをインストールまたはアップグレードするときは、バンドルされているActive IQルールを自動でアップロードに使用できます。ただし、NetAppのサポートサイトから月に一度は新しいルール ファイルをダウンロードして、更新されたイベントが生成され、ストレージ システムのパフォーマンスが最適な状態に保たれるようにすることを推奨します。

開始する前に

- Active IQポータル イベントのレポートを有効にしておく必要があります。この機能はデフォルトで有効になっています。詳細については、"Active IQポータル イベントの有効化"を参照してください。
- ルール ファイルをNetAppサポート サイトからダウンロードしておく必要があります。

  ルールファイルは以下の場所にあります： https://mysupport.netapp.com/api/content-service/staticcontents/content/public/tools/unifiedmanager/ca/secure_rules.zip

手順

1. ネットワーク アクセスが可能なコンピューターで、NetApp Support Site にアクセスし、最新のルール `.zip`ファイルをダウンロードしてください。

   バンドルされたルール パッケージには、ルール リポジトリ、データ ソース、およびNetAppのナレッジベース記事が含まれています。

   Windowsシステムでは、ネットワーク接続のないサイトの場合、デフォルトでNetApp KB記事はインストーラに同梱されていません。サポートサイトから_secure_rules.zip_ファイルをダウンロードしてアップロードすると、すべてのルールのKB記事を表示できます。

2. ルール ファイルをセキュリティ エリアに持ち込めるメディアに転送し、セキュリティ エリア内のシステムにコピーします。
3. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ イベント設定 をクリックします。
4. 「イベント設定」ページで、「ルールをアップロード」ボタンをクリックします。
5. 「Upload Rules」ダイアログボックスで、ダウンロードしたルール `.zip`ファイルに移動して選択し、「Upload」をクリックします。

   このプロセスには数分かかることがあります。

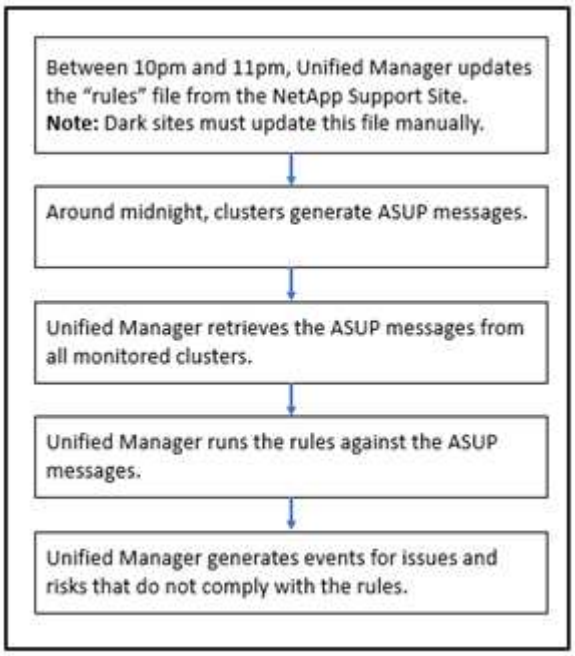
ルール ファイルがUnified Managerサーバに解凍されます。午前0時過ぎに管理対象クラスタでAutoSupportフ

ファイルが生成されたあと、Unified Managerがルール ファイルに照らしてクラスタをチェックし、必要に応じて新しいリスク イベントおよびインシデント イベントを生成します。

詳細については、こちらのナレッジベース（KB）記事をご覧ください： "Active IQ Unified Manager でAIQCASecureルールを手動で更新する方法"。

Active IQ Unified Manager が Active IQ プラットフォームイベントを生成する仕組み

Active IQプラットフォームのインシデントとリスクは、次の流れでUnified Managerのイベントに変換されます。

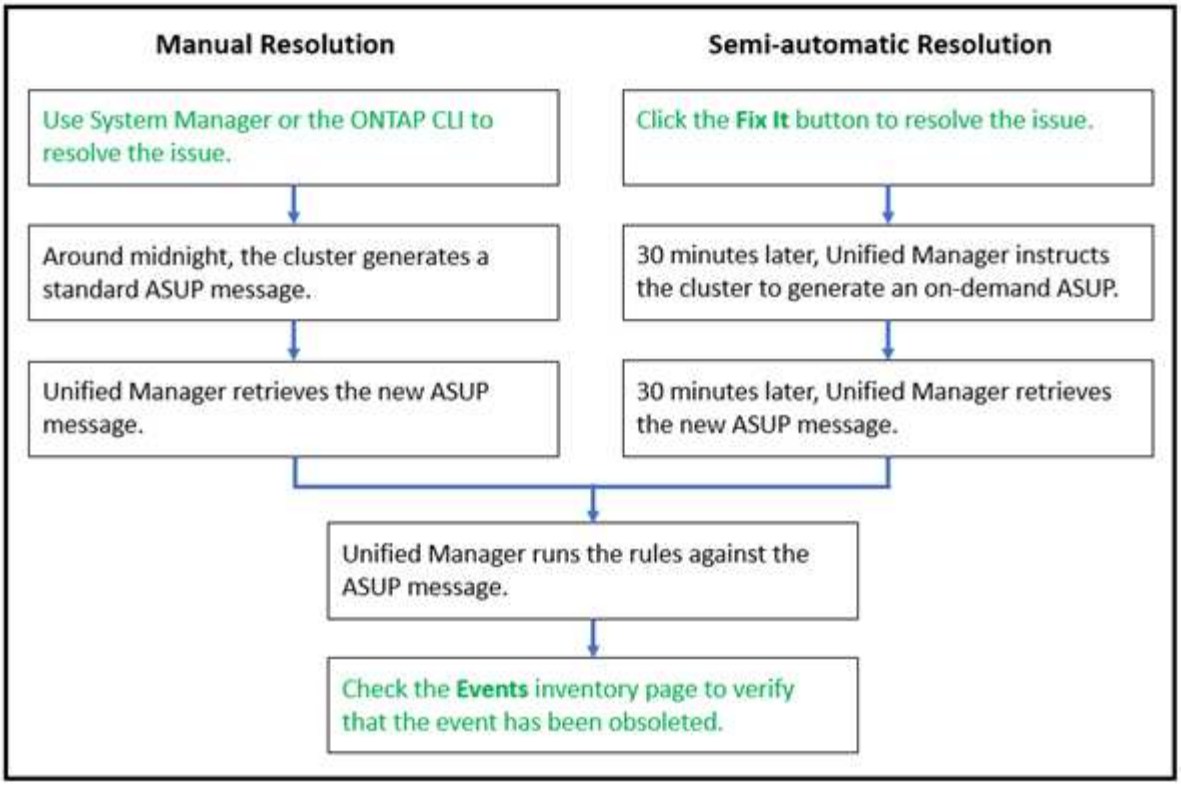


このフロー図からわかるように、Active IQプラットフォームで作成されたルール ファイルが最新の状態に維持され、クラスタのAutoSupportメッセージが毎日生成され、Unified Managerがイベントのリストを毎日更新します。

Active IQ Unified Manager で Active IQ プラットフォームイベントを解決する

Active IQプラットフォームのインシデントとリスクは、他のUnified Managerイベントと同様に他のユーザにその解決を割り当てることができ、ステータスの種類も同じです。ただし、「Fix It」ボタンを使用してこれらの種類のイベントを解決すると、数時間以内に解決状況を確認できます。

次の図は、Active IQプラットフォームから生成されたイベントの解決時にユーザが実行する操作（緑）とUnified Managerで実行される操作（黒）を示しています。



手動で解決する場合は、System ManagerまたはONTAPコマンドライン インターフェイスにログインして問題を解決する必要があります。この場合、問題の解決を確認できるのは、午前0時にクラスタで新しいAutoSupportメッセージが生成されたあとです。

「Fix It」ボタンを使用して半自動的な解決を実行すると、数時間以内に修正が成功したことを確認できます。

Active IQ Unified Manager でイベント保持設定を構成する

イベントが自動的に削除されるまでにUnified Managerサーバでイベントを保持する月数を指定できます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

サーバのパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があるため、イベントの保持期間を6カ月以上に設定することは推奨されません。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、**[全般]** > **[データ保持]** をクリックします。
2. 「データ保持」ページで、「イベント保持」エリアのスライダーを選択し、イベントを保持する月数まで移動させて、「保存」をクリックします。

Unified Manager のメンテナンスウィンドウとは

Active IQ Unified Manager のメンテナンス ウィンドウについて

Unified Managerのメンテナンスウィンドウを定義することで、クラスタのメンテナンスをスケジュールしている場合など、不要な通知が大量に届くのを防ぎたい特定の期間、イベントやアラートを抑制することができます。

メンテナンス時間が始まると、「オブジェクトのメンテナンス時間を開始」イベントが[イベント管理]インベントリ ページに記録されます。このイベントは、メンテナンス時間が終了すると自動的に廃止されます。

メンテナンス時間中も、そのクラスタのすべてのオブジェクトに関連するイベントは引き続き生成されますが、いずれのUIページにも表示されず、アラートやその他の通知も送信されません。ただし、[イベント管理]インベントリ ページでいずれかの[表示]オプションを選択すれば、すべてのストレージ オブジェクトについてメンテナンス時間中に生成されたイベントを確認することができます。

メンテナンス時間をスケジュールしたり、スケジュールされたメンテナンス時間の開始時刻や終了時刻を変更したり、スケジュールされたメンテナンス時間をキャンセルしたりできます。

Active IQ Unified Manager でクラスターイベント通知を無効にするメンテナンスウィンドウをスケジュールする

クラスタをアップグレードしたり、いずれかのノードを移動したりする場合など、クラスタを計画的に停止するときは、Unified Managerのメンテナンス時間をスケジュールすることで、その間は通常生成されるイベントやアラートを抑制することができます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

メンテナンス時間中も、そのクラスタのすべてのオブジェクトに関連するイベントは引き続き生成されますが、イベント ページには表示されず、アラートやその他の通知も送信されません。

メンテナンス時間に入力する時刻はUnified Managerサーバの時刻に基づいています。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 > *クラスタ設定*をクリックします。
2. クラスターの **Maintenance Mode** 列で、スライダーボタンを選択し、右に移動します。

   カレンダーのウィンドウが表示されます。

3. メンテナンス期間の開始日時と終了日時を選択し、*適用*をクリックしてください。

   スライダ ボタンの横に「スケジュール設定済み」というメッセージが表示されます。

開始時間になると、クラスタがメンテナンス モードになり、「オブジェクトのメンテナンス時間を開始」イベントが生成されます。

Active IQ Unified Manager で予定されているメンテナンスウィンドウを変更またはキャンセルする

まだ開始されていない設定済みのUnified Managerのメンテナンス時間について、開始時刻や終了時刻を変更したり、メンテナンス時間をキャンセルしたりできます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

メンテナンス時間中に、すでにクラスタのメンテナンスが完了したため、スケジュールされたメンテナンス時間の終了時刻を待たずにクラスタからのイベントやアラートの通知を再開したい場合は、現在のメンテナンス時間をキャンセルすると便利です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 > *クラスタ設定*をクリックします。
2. クラスターの **Maintenance Mode** 列：

状況	この手順を実行してください...
スケジュールされたメンテナンス時間の期間を変更する	a. スライダ ボタンの横にある「スケジュール設定済み」というテキストをクリックします。 b. 開始日時および／または終了日時を変更し、**Apply** をクリックしてください。
現在のアクティブなメンテナンス時間を延長する	a. スライダ ボタンの横にある「アクティブ」というテキストをクリックします。 b. 終了日時を変更して、*適用*をクリックしてください。
スケジュールされたメンテナンス時間をキャンセルする	スライダ ボタンを選択して左に動かします。
アクティブなメンテナンス時間をキャンセルする	スライダ ボタンを選択して左に動かします。

Active IQ Unified Manager でメンテナンス期間中に生成されたイベントを表示する

必要に応じて、すべてのストレージ オブジェクトについてUnified Managerのメンテナンス時間中に生成されたイベントを確認することができます。ほとんどのイベントは、メンテナンス時間が終了し、すべてのシステム リソースが再び稼働すると、「廃止」の状態になります。

開始する前に

少なくとも1回はメンテナンス時間が完了している必要があります。

メンテナンス時間中に発生したイベントは、デフォルトでは[イベント管理]インベントリ ページに表示されません。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、*イベント*をクリックします。

   [イベント管理]インベントリ ページには、デフォルトではすべてのアクティブなイベント（新規と確認済みのイベント）が表示されます。

2. 「表示」ペインから、*メンテナンス中に生成されたすべてのイベント*オプションを選択します。

   メンテナンス時間のすべてのセッションとすべてのクラスタを対象に、過去7日間にトリガーされたイベ

ントのリストが表示されます。

3. 単一のクラスターに対して複数のメンテナンス期間が設定されている場合は、**Triggered Time** カレンダーアイコンをクリックして、表示したいメンテナンス期間のイベントの期間を選択できます。

Active IQ Unified Manager でホストシステムリソースイベントを管理する

Unified Managerには、Unified Managerがインストールされているホストシステム上のリソースの問題を監視するサービスが含まれています。ホストシステムのディスク容量不足やメモリ不足などの問題が発生すると、管理ステーションイベントが発生し、UIの上部にバナーメッセージとして表示されることがあります。

管理ステーションのイベントは、Unified Manager がインストールされているホストシステムに問題があることを示します。管理ステーションの問題の例としては、ホストシステムのディスク容量不足、Unified Manager による定期的なデータ収集サイクルの欠落、次回のデータ収集ポーリングが開始されたために統計分析が完了しない、または完了が遅れるなどが挙げられます。

他のすべてのUnified Managerイベントメッセージとは異なり、これらの特定の管理ステーションの警告および重大イベントはバナーメッセージで表示されます。

手順

1. 管理ステーション イベントの情報を表示するには、次の操作を実行します。

状況	操作
イベントの詳細を表示する	イベント バナーをクリックして、問題の解決策を提案する[イベントの詳細]ページを表示します。
すべての管理ステーション イベントを表示する	a. 左側のナビゲーションペインで、*イベント管理*をクリックします。 b. [イベント管理]インベントリ ページの[フィルタ]ペインで、[ソース タイプ]リストにある[管理ステーション]のボックスをクリックします。

イベントの詳細を理解する

Active IQ Unified Manager のイベントの状態

イベントの状態を確認すると、対処が必要かどうかを特定するのに役立ちます。イベントの状態は、「新規」、「確認済み」、「解決済み」、「廃止」のいずれかになります。「新規」と「確認済み」のイベントの両方がアクティブなイベントとみなされます。

イベントの状態は次のとおりです。

- 新しい

  新しいイベントの状態

- 承認済み

イベントを確認したときの状態

- 解決済み

  イベントが解決済みとマークされたときの状態

- 廃止

  イベントが自動的に修正されたか、イベントの原因が有効でなくなったときの状態

  廃止状態のイベントを確認または解決することはできません。

イベントのさまざまな状態の例

次の例は、手動および自動でイベントの状態が変化する様子を示しています。

「クラスタに到達できません」イベントがトリガーされると、その時点でイベントの状態は「新規」になります。そのイベントを確認すると、イベントの状態は「確認済み」に変わります。イベントに適切に対処したら、イベントを解決済みとしてマークする必要があります。これにより、イベントの状態は「解決済み」に変わります。

「クラスタに到達できません」イベントが生成された原因が停電であった場合は、電源が復旧すると、管理者の介入なしでクラスタが再開されます。そのため、「クラスタに到達できません」イベントは有効でなくなり、イベントの状態が次回の監視サイクルで「廃止」に変わります。

Unified Managerでは、イベントが「廃止」または「解決済み」の状態になるとアラートを送信します。このアラートのEメールの件名と内容に、イベントの状態に関する情報が記載されます。また、SNMPトラップにもイベントの状態に関する情報が含まれます。

Active IQ Unified Manager のイベント重大度タイプについて

イベントには、対処する際の優先度を判別できるように、それぞれ重大度タイプが関連付けられています。

- クリティカル

  問題が発生しており、すぐに対処しないとサービスが停止する可能性があります。

  パフォーマンスに関する重大イベントは、ユーザ定義のしきい値からのみ生成されます。

- エラー

  イベント ソースは実行中ですが、サービスの停止を回避するために対処が必要です。

- 警告

  イベント ソースに注意が必要なアラートが発生したか、クラスタ オブジェクトのパフォーマンス カウンタが正常な範囲から外れており、重大な問題にならないように監視が必要です。この重大度のイベントではサービスは停止しません。早急な対処も不要です。

  パフォーマンスに関する警告イベントは、システムまたはユーザ定義のしきい値、あるいは動的なしきい値から生成されます。

- 情報

  新しいオブジェクトが検出されたときやユーザ操作が実行されたときに発生します。たとえば、ストレージ オブジェクトが削除されたときや設定に変更があったときは、情報タイプの重大度のイベントが生成されます。

  情報イベントは、ONTAPで設定の変更が検出されたときに直接生成されます。

Active IQ Unified Manager のイベントの影響レベルについて

イベントには、対処する際の優先度を判別できるように、それぞれに影響レベル（インシデント、リスク、イベント、またはアップグレード）が関連付けられています。

- インシデント

  インシデントは、クラスタによるクライアントへのデータの提供の停止やデータを格納するスペースの不足を引きおこす一連のイベントです。影響レベルが「インシデント」のイベントは、最も重大度が高く、サービスの停止を回避するためにすぐに対処する必要があります。

- リスク

  リスクは、クラスタによるクライアントへのデータの提供の停止やデータを格納するスペースの不足を引き起こす可能性がある一連のイベントです。影響レベルが「リスク」のイベントは、サービスの停止につながる可能性があり、対処が必要な場合があります。

- イベント

  イベントは、ストレージ オブジェクトとその属性の状態やステータスの変化を示します。影響レベルが「イベント」のイベントは、情報提供を目的としたものであり、特別な対処は必要ありません。

- アップグレード

  アップグレードイベントは、Active IQ プラットフォームから報告される特定の種類のイベントです。これらのイベントは、ONTAP ソフトウェア、ノードファームウェア、またはオペレーティングシステムソフトウェア（セキュリティ勧告の場合）のアップグレードが解決策として必要な問題を特定します。これらの問題の中には、直ちに是正措置を講じる必要があるものもあれば、次回の定期メンテナンスまで待てるものもあります。

Active IQ Unified Manager のイベントの影響範囲について

イベントは、管理者が担当するタイプのイベントに専念できるように、6つの影響領域（可用性、容量、構成、パフォーマンス、保護、セキュリティ）に分類されています。

- 可用性

  可用性イベントは、ストレージ オブジェクトがオフラインになった場合、プロトコル サービスが停止した場合、ストレージ フェイルオーバーで問題が発生した場合、ハードウェアで問題が発生した場合に通知するイベントです。

- 容量

  容量イベントは、アグリゲート、ボリューム、LUN、またはネームスペースのサイズがしきい値に近づい

ているか達した場合、または環境の通常の増加率とかけ離れている場合に通知するイベントです。

- 構成

  構成イベントは、ストレージ オブジェクトの検出、削除、追加、または名前変更について通知するイベントです。構成イベントの影響レベルは「イベント」、重大度タイプは「情報」です。

- パフォーマンス

  パフォーマンス イベントは、監視対象のストレージ オブジェクトにおけるデータ ストレージの入力速度や取得速度に悪影響を及ぼす可能性がある、クラスタのリソース、設定、または処理の状況について通知するイベントです。

- 保護

  保護イベントは、SnapMirror関係に関するインシデントやリスク、デスティネーションの容量の問題、SnapVault関係の問題、または保護ジョブの問題について通知するイベントです。セカンダリ ボリュームおよび保護関係をホストするONTAPのオブジェクト（アグリゲート、ボリューム、およびSVM）は、いずれもこの影響領域に分類されます。

- セキュリティ

  セキュリティイベントは、 "NetApp ONTAP 9 セキュリティ強化ガイド"で定義されたパラメータに基づいて、ONTAPクラスター、ストレージ仮想マシン（SVM）、およびボリュームのセキュリティ状態を通知します。

  さらに、この領域には、Active IQプラットフォームから報告されるアップグレード イベントも含まれます。

Active IQ Unified Manager がオブジェクトのステータスを計算する方法

オブジェクト ステータスは、現在の状態が「新規」または「確認済み」である最も重大度の高いイベントによって決まります。たとえば、オブジェクト ステータスが「エラー」の場合は、オブジェクトのいずれかのイベントの重大度タイプが「エラー」となっています。イベントに対処すると、イベントの状態は「解決済み」になります。

Active IQ Unified Manager の動的パフォーマンスイベントについて

動的なパフォーマンス イベントに関する情報として、[イベントの詳細]ページの[システム診断]セクションに、レイテンシが高いワークロード、または競合状態のクラスタ コンポーネントの使用量が多いワークロードが表示されます。

パフォーマンス統計は、パフォーマンス イベントが検出されてからイベントが最後に分析されるまでの時間に基づいています。このグラフには、競合状態のクラスタ コンポーネントの過去のパフォーマンス統計も表示されます。

たとえば、コンポーネントの利用率が高いワークロードを確認して、利用率が低いコンポーネントに移動するワークロードを特定できます。ワークロードを移動することで、現在のコンポーネントにかかる作業量が減り、場合によってはそのコンポーネントが競合状態から外れる可能性があります。このセクションの上部には、イベントが検出され、最後に分析された時刻と日付の範囲が表示されます。アクティブなイベント（新規または確認済みのイベント）の場合は、最後に分析された時刻が更新されます。

レイテンシとアクティビティのグラフにカーソルを合わせると、上位のワークロードの名前が表示されます。グラフの右側にある「ワークロードタイプ」メニューをクリックすると、ワークロードをイベントにおける役割（*sharks*、*bullies*、_victims_など）に基づいて並べ替えることができ、競合しているクラスタコンポーネント上でのレイテンシと使用状況の詳細が表示されます。実際の値と期待値を比較することで、ワークロードのレイテンシや使用量が想定範囲外になった時期を確認できます。詳細については、"Unified Managerで監視されるワークロードのタイプ"を参照してください。

ⓘ レイテンシのピーク偏差でソートする場合は、システム定義のワークロードがテーブルに表示されません。これは、レイテンシがユーザ定義のワークロードにのみ適用されるためです。レイテンシの値が小さいワークロードはこのテーブルに表示されません。

動的パフォーマンスしきい値の詳細については、"動的なパフォーマンスしきい値で生成されたイベントの分析"を参照してください。

Unified Manager がワークロードをどのようにランク付けし、ソート順を決定するかについては、"Unified Managerがイベントによるパフォーマンスへの影響を判定する仕組み"を参照してください。

グラフ内のデータには、イベントが最後に分析されるまでの24時間のパフォーマンス統計が示されます。各ワークロードの実際の値と想定値は、ワークロードがイベントに関連した時間に基づいています。たとえば、イベントの検出後にワークロードがそのイベントに関連した可能性があるため、パフォーマンス統計がイベント検出時の値に一致しないことがあります。デフォルトでは、レイテンシのピーク（最大）偏差でワークロードがソートされます。

ⓘ Unified Managerは、5分間隔の履歴パフォーマンスデータとイベントデータを最大30日間保持するため、イベントが30日以上前のものである場合、パフォーマンスデータは表示されません。

- ワークロードソート列
  - レイテンシーチャート

    前回の分析中の、ワークロードのレイテンシに対するイベントの影響が表示されます。
  - コンポーネント使用状況列

    競合状態のクラスタ コンポーネントのワークロードの使用量に関する詳細が表示されます。グラフでは、実際の使用量は青い線で表示されます。赤のバーは、イベント期間（検出時間から最後の分析時間まで）を示します。詳細については、"ワークロード パフォーマンスの測定値"を参照してください。

    ⓘ ネットワーク コンポーネントの場合は、クラスタ以外のアクティビティに基づいてネットワーク パフォーマンス統計が作成されるため、この列は表示されません。
  - コンポーネントの使用法

    ネットワーク処理、データ処理、およびアグリゲート コンポーネントの利用率（割合）の履歴またはQoSポリシー グループ コンポーネントのアクティビティ（割合）の履歴が表示されます。ネットワーク コンポーネントまたはインターコネクト コンポーネントについてはこのグラフは表示されません。統計にカーソルを合わせると、特定の時点における使用状況を表示できます。
  - 書き込み合計**MB/s**履歴

    MetroClusterのリソース コンポーネントの場合にのみ、MetroCluster構成のパートナー クラスタにミ

ラーリングされるすべてのボリューム ワークロードについて、書き込みスループットの合計が1秒あたりのメガバイト数（MBps）で表示されます。

- イベント履歴

  競合状態のコンポーネントの過去のイベントを示す赤い影付きの線が表示されます。廃止状態のイベントの場合は、選択したイベントが検出される前に発生したイベントおよびそのイベントが解決されたあとに発生したイベントがチャートに表示されます。

Active IQ Unified Manager によって検出された構成変更

Unified Managerは、クラスターの構成変更を監視し、変更がパフォーマンスイベントの原因となった、またはパフォーマンスイベントに影響を与えたかどうかを判断するのに役立ちます。Performance Explorerページには、変更が検出された日時を示す変更イベントアイコン（●）が表示されます。

[パフォーマンス エクスプローラ]ページと[ワークロード分析]ページのパフォーマンス グラフで、変更イベントが選択したクラスタ オブジェクトのパフォーマンスに影響していないかどうかを確認できます。パフォーマンス イベントと同時かその前後に変更が検出されていれば、その変更が原因でイベントのアラートがトリガーされた可能性があります。

Unified Managerは、情報イベントとして分類される以下の変更イベントを検出できます。

- ボリュームがアグリゲート間で移動されたとき。

  Unified Managerは、移動が進行中、完了、または失敗したことを検知できます。ボリュームの移動中にUnified Managerがダウンした場合、Unified Managerが復旧すると、ボリュームの移動を検出し、その変更イベントを表示します。

- 1つ以上の監視対象ワークロードを含むQoSポリシー グループのスループット（MBpsまたはIOPS）の制限が変更されたとき。

  ポリシー グループ制限を変更するとレイテンシ（応答時間）が一時的に長くなることがあり、ポリシー グループのイベントがトリガーされる可能性もあります。レイテンシは徐々に正常に戻り、発生したイベントは廃止状態になります。

- HAペア内のノードは、パートナーノードのストレージをテイクオーバーしたり、パートナーノードに返還したりします。

  Unified Manager は、テイクオーバー、部分テイクオーバー、またはギブバック操作が完了したことを検出できます。テイクオーバーがパニック状態のノードによって引き起こされた場合、Unified Manager はそのイベントを検出しません。

- ONTAPのアップグレードやリバートの処理が正常に完了したとき。

  以前のバージョンと新しいバージョンが表示されます。

イベントおよび重大度タイプのリスト

Active IQ Unified Manager のアグリゲートイベントの詳細

アグリゲート イベントは、アグリゲートのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

アスタリスク（*）は、EMSイベントがUnified Managerイベントに変換されたことを示します。

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
アグリゲートはオフライン（ocumEvtAggregateStateOffline）	インシデント	Aggregate	重大
アグリゲートで障害（ocumEvtAggregateStateFailed）	インシデント	Aggregate	重大
アグリゲートは制限状態（ocumEvtAggregateStateRestricted）	リスク	Aggregate	警告
アグリゲートは再構築中（ocumEvtAggregateRaidStateReconstructing）	リスク	Aggregate	警告
アグリゲートはデグレード状態（ocumEvtAggregateRaidStateDegraded）	リスク	Aggregate	警告
クラウド階層に一部到達可能（ocumEventCloudTierPartiallyReachable）	リスク	Aggregate	警告
クラウド階層に到達不能（ocumEventCloudTierUnreachable）	リスク	Aggregate	エラー
集約の再配置のため、クラウド層へのアクセスが拒否されました *（arlNetraCaCheckFailed）	リスク	Aggregate	エラー
ストレージフェイルオーバー中のアグリゲート再配置に対するクラウドティアアクセスが拒否されました *（gbNetraCaCheckFailed）	リスク	Aggregate	エラー

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
MetroCluster で残ったアグリゲートあり（ocumEvtMetroClusterAggregateLeftBehind）	リスク	Aggregate	エラー
MetroCluster アグリゲートのミラーリングがデグレード状態（ocumEvtMetroClusterAggregateMirrorDegraded）	リスク	Aggregate	エラー

影響範囲：容量

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
アグリゲート スペースがほぼフル（ocumEvtAggregateNearlyFull）	リスク	Aggregate	警告
アグリゲート スペースがフル（ocumEvtAggregateFull）	リスク	Aggregate	エラー
アグリゲートのフルまでの日数（ocumEvtAggregateDaysUntilFullSoon）	リスク	Aggregate	エラー
アグリゲートがオーバーコミット（ocumEvtAggregateOvercommitted）	リスク	Aggregate	エラー
アグリゲートがほぼオーバーコミット（ocumEvtAggregateAlmostOvercommitted）	リスク	Aggregate	警告
アグリゲートの Snapshot リザーブがフル（ocumEvtAggregateSnapReserveFull）	リスク	Aggregate	警告
アグリゲートの増加率 - 異常（ocumEvtAggregateGrowthRateAbnormal）	リスク	Aggregate	警告

影響範囲：構成

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
アグリゲートを検出（該当なし）	イベント	Aggregate	情報
アグリゲートの名前を変更（該当なし）	イベント	Aggregate	情報
アグリゲートを削除（該当なし）	イベント	ノード	情報

影響範囲：パフォーマンス

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
アグリゲート IOPS の重大しきい値を超過（ocumAggregateIopsIncident）	インシデント	Aggregate	重大
アグリゲート IOPS の警告しきい値を超過（ocumAggregateIopsWarning）	リスク	Aggregate	警告
アグリゲート MBps の重大しきい値を超過（ocumAggregateMbpsIncident）	インシデント	Aggregate	重大
アグリゲート MBps の警告しきい値を超過（ocumAggregateMbpsWarning）	リスク	Aggregate	警告
アグリゲート レイテンシの重大しきい値を超過（ocumAggregateLatencyIncident）	インシデント	Aggregate	重大
アグリゲート レイテンシの警告しきい値を超過（ocumAggregateLatencyWarning）	リスク	Aggregate	警告
アグリゲート使用済みパフォーマンス容量の重大しきい値を超過（ocumAggregatePerfCapacityUsedIncident）	インシデント	Aggregate	重大

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
アグリゲート使用済みパフォーマンス容量の警告しきい値を超過（ocumAggregatePerfCapacityUsedWarning）	リスク	Aggregate	警告
アグリゲート利用率の重大しきい値を超過（ocumAggregateUtilizationIncident）	インシデント	Aggregate	重大
アグリゲート利用率の警告しきい値を超過（ocumAggregateUtilizationWarning）	リスク	Aggregate	警告
利用率の高いアグリゲート ディスクのしきい値を超過（ocumAggregateDisksOverUtilizedWarning）	リスク	Aggregate	警告
アグリゲート動的イベントのしきい値を超過（ocumAggregateDynamicEventWarning）	リスク	Aggregate	警告

Active IQ Unified Manager のクラスターイベントについて学ぶ

クラスタ イベントは、クラスタのステータスに関する情報を提供します。これにより、クラスタの潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

アスタリスク（*）は、EMSイベントがUnified Managerイベントに変換されたことを示します。

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
クラスタにスペア ディスクなし（ocumEvtDisksNoSpares）	リスク	クラスタ	警告
クラスタに到達できません（ocumEvtClusterUnreachable）	リスク	クラスタ	エラー
クラスタ監視失敗（ocumEvtClusterMonitoringFailed）	リスク	クラスタ	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
クラスタの FabricPool ライセンス容量制限を超過（ocumEvtExternalCapacityTierSpaceFull）	リスク	クラスタ	警告
NVMe-oF 猶予期間が開始されました *（nvmfGracePeriodStart）	リスク	クラスタ	警告
NVMe-oF 猶予期間有効 *(nvmfGracePeriodActive)	リスク	クラスタ	警告
NVMe-oF 猶予期間が終了しました *（nvmfGracePeriodExpired）	リスク	クラスタ	警告
オブジェクトのメンテナンス時間を開始（objectMaintenanceWindowStarted）	イベント	クラスタ	重大
オブジェクトのメンテナンス時間を終了（objectMaintenanceWindowEnded）	イベント	クラスタ	情報
MetroCluster で残ったスペア ディスクあり（ocumEvtSpareDiskLeftBehind）	リスク	クラスタ	エラー
MetroCluster の自動計画外スイッチオーバーが無効（ocumEvtMccAutomaticUnplannedSwitchOverDisabled）	リスク	クラスタ	警告
クラスタユーザのパスワードが変更されました *(cluster.passwd.changed)	イベント	クラスタ	情報

影響範囲：容量

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
クラスタ容量の不均衡しきい値を超過（ocumConformanceNodeImbalanceWarning）	リスク	クラスタ	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
クラスタのクラウド階層の計画（clusterCloudTierPlanningWarning）	リスク	クラスタ	警告
FabricPoolミラーレプリケーションの再同期が完了しました *（waflCaResyncComplete）	イベント	クラスタ	警告
FabricPoolスペースはほぼ満杯です *（fabricpoolNearlyFull）	リスク	クラスタ	エラー

影響範囲：構成

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ノードの追加（該当なし）	イベント	クラスタ	情報
ノードを削除（該当なし）	イベント	クラスタ	情報
クラスタを削除（該当なし）	イベント	クラスタ	情報
クラスタ追加失敗（該当なし）	イベント	クラスタ	エラー
クラスタの名前を変更（該当なし）	イベント	クラスタ	情報
緊急の EMS を受信（該当なし）	イベント	クラスタ	重大
重大な EMS を受信（該当なし）	イベント	クラスタ	重大
アラートの EMS を受信（該当なし）	イベント	クラスタ	エラー
エラーの EMS を受信（該当なし）	イベント	クラスタ	警告
警告の EMS を受信（該当なし）	イベント	クラスタ	警告
デバッグの EMS を受信（該当なし）	イベント	クラスタ	警告
通知の EMS を受信（該当なし）	イベント	クラスタ	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
情報の EMS を受信（該当なし）	イベント	クラスタ	警告

ONTAP EMS イベントは、Unified Manager イベントの重大度レベルに応じて3つのカテゴリに分類されます。

Unified Managerイベントの重大度レベル	ONTAP EMSイベントの重大度レベル
重大	緊急 重大
エラー	アラート
警告	エラー 警告 デバッグ 通知 情報

影響範囲：パフォーマンス

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
クラスタ負荷の不均衡しきい値を超過	リスク	クラスタ	警告
クラスタ IOPS の重大しきい値を超過（ocumClusterIopsIncident）	インシデント	クラスタ	重大
クラスタ IOPS の警告しきい値を超過（ocumClusterIopsWarning）	リスク	クラスタ	警告
クラスタ MBps の重大しきい値を超過（ocumClusterMbpsIncident）	インシデント	クラスタ	重大
クラスタ MBps の警告しきい値を超過（ocumClusterMbpsWarning）	リスク	クラスタ	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
クラスタ動的イベントの警告しきい値を超過（ocumClusterDynamicEventWarning）	リスク	クラスタ	警告

影響領域：セキュリティ

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
AutoSupport HTTPS 転送が無効（ocumClusterASUPHttpsConfiguredDisabled）	リスク	クラスタ	警告
ログ転送が暗号化されていない（ocumClusterAuditLogUnencrypted）	リスク	クラスタ	警告
デフォルトのローカル管理ユーザが有効（ocumClusterDefaultAdminEnabled）	リスク	クラスタ	警告
FIPS モードが無効（ocumClusterFipsDisabled）	リスク	クラスタ	警告
ログイン バナーが無効（ocumClusterLoginBannerDisabled）	リスク	クラスタ	警告
ログイン バナーを変更（ocumClusterLoginBannerChanged）	リスク	クラスタ	警告
ログ転送先を変更（ocumLogForwardDestinationsChanged）	リスク	クラスタ	警告
NTP サーバ名を変更（ocumNtpServerNamesChanged）	リスク	クラスタ	警告
NTP サーバ数が不足（securityConfigNTPServerCountLowRisk）	リスク	クラスタ	警告
クラスタ ピア通信が暗号化されていない（ocumClusterPeerEncryptionDisabled）	リスク	クラスタ	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
SSH でセキュアでない暗号を使用（ocumClusterSSHInsecure）	リスク	クラスタ	警告
Telnet プロトコルが有効（ocumClusterTelnetEnabled）	リスク	クラスタ	警告
一部の ONTAP ユーザ アカウントで安全性が低い MD5 ハッシュ関数を使用（ocumClusterMD5PasswordHashUsed）	リスク	クラスタ	警告
クラスタで自己署名証明書を使用（ocumClusterSelfSignedCertificate）	リスク	クラスタ	警告
クラスタ リモート シェルが有効（ocumClusterRshDisabled）	リスク	クラスタ	警告
クラスタ証明書の有効期間がまもなく終了（ocumEvtClusterCertificateAboutToExpire）	リスク	クラスタ	警告
クラスタ証明書の有効期間が終了（ocumEvtClusterCertificateExpired）	リスク	クラスタ	エラー

Active IQ Unified Manager のディスクイベントについて

ディスクのイベントは、ディスクのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
フラッシュ ディスク - スペア ブロックをほぼ使用（ocumEvtClusterFlashDiskFewerSpareBlockError）	リスク	クラスタ	エラー

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
フラッシュ ディスク - スペア ブロックなし（ocumEvtClusterFlashDiskNoSpareBlockCritical）	インシデント	クラスタ	重大
未割り当てディスクあり（ocumEvtClusterUnassignedDisksSome）	リスク	クラスタ	警告
障害ディスクあり（ocumEvtDisksSomeFailed）	インシデント	クラスタ	重大

Active IQ Unified Manager のエンクロージャーイベントについて

エンクロージャのイベントは、データセンター内のディスク シェルフ エンクロージャのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ディスク シェルフのファンに障害（ocumEvtShelfFanFailed）	インシデント	ストレージ シェルフ	重大
ディスク シェルフの電源装置に障害（ocumEvtShelfPowerSupplyFailed）	インシデント	ストレージ シェルフ	重大
ディスク シェルフ マルチパス未設定（ocumDiskShelfConnectivityNotInMultiPath） このイベントの適用対象外： • MetroCluster構成のクラスタ • 以下のプラットフォーム：FAS2554、FAS2552、FAS2520、およびFAS2240	リスク	ノード	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ディスク シェルフ パス障害（ocumDiskShelfConnectivityPathFailure）	リスク	ストレージ シェルフ	警告

影響範囲：構成

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ディスク シェルフを検出（該当なし）	イベント	ノード	情報
ディスク シェルフを削除（該当なし）	イベント	ノード	情報

Active IQ Unified Manager のファンイベントについて

ファン イベントは、データセンター内のノードのファンのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
1 つ以上のファンに障害（ocumEvtFansOneOrMoreFailed）	インシデント	ノード	重大

Active IQ Unified Manager のフラッシュカードイベントについて

フラッシュ カードのイベントは、データセンター内のノードに取り付けられているフラッシュ カードのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
フラッシュ カードはオフライン（ocumEvtFlashCardOffline）	インシデント	ノード	重大

Active IQ Unified Manager の inode イベントについて

inodeイベントは、inodeがフルまたはほぼフルになったことを通知します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：容量

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
inode がほぼフル（ocumEvtInodesAlmostFull）	リスク	Volume	警告
inode がフル（ocumEvtInodesFull）	リスク	Volume	エラー

Active IQ Unified Manager のネットワークインターフェイスイベント

ネットワーク インターフェイス（LIF）イベントは、LIFのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ネットワーク インターフェイスのステータス - 停止（ocumEvtLifStatusDown）	リスク	インターフェイス	エラー
FC / FCoE ネットワーク インターフェイスのステータス - 停止（ocumEvtFCLifStatusDown）	リスク	インターフェイス	エラー
ネットワーク インターフェイスのフェイルオーバー実行不可（ocumEvtLifFailoverNotPossible）	リスク	インターフェイス	警告
ネットワーク インターフェイスがホーム ポートにない（ocumEvtLifNotAtHomePort）	リスク	インターフェイス	警告

影響範囲：構成

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ネットワーク インターフェイスのルートが未設定（該当なし）	イベント	インターフェイス	情報

影響範囲：パフォーマンス

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ネットワーク インターフェイス MBps の重大しきい値を超過（ocumNetworkLifMbpsIncident）	インシデント	インターフェイス	重大
ネットワーク インターフェイス MBps の警告しきい値を超過（ocumNetworkLifMbpsWarning）	リスク	インターフェイス	警告
FC ネットワーク インターフェイス MBps の重大しきい値を超過（ocumFcpLifMbpsIncident）	インシデント	インターフェイス	重大
FC ネットワーク インターフェイス MBps の警告しきい値を超過（ocumFcpLifMbpsWarning）	リスク	インターフェイス	警告
NVMf FC ネットワーク インターフェイス MBps の重大しきい値を超過（ocumNvmfFcLifMbpsIncident）	インシデント	インターフェイス	重大
NVMf FC ネットワーク インターフェイス MBps の警告しきい値を超過（ocumNvmfFcLifMbpsWarning）	リスク	インターフェイス	警告

Active IQ Unified Manager の **LUN** イベントについて

LUNイベントは、LUNのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

アスタリスク（*）は、EMSイベントがUnified Managerイベントに変換されたことを示します。

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
LUN はオフライン（ocumEvtLunOffline）	インシデント	LUN	重大
LUNが破棄されました *（lunDestroy）	イベント	LUN	情報
igroup でサポートされないオペレーティング システムに LUN をマッピング（igroupUnsupportedOsType）	インシデント	LUN	警告
LUN にアクセスするためのアクティブなパスが 1 つのみ（ocumEvtLunSingleActivePath）	リスク	LUN	警告
LUN にアクセスするためのアクティブなパスがない（ocumEvtLunNotReachable）	インシデント	LUN	重大
LUN にアクセスするための最適パスがない（ocumEvtLunOptimizedPathInactive）	リスク	LUN	警告
HA パートナーから LUN にアクセスするためのパスがない（ocumEvtLunHaPathInactive）	リスク	LUN	警告
HA ペアの一方のノードから LUN にアクセスするためのパスがない（ocumEvtLunNodePathStatusDown）	リスク	LUN	エラー

影響範囲：容量

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
LUN Snapshot コピー用の十分なスペースなし（ocumEvtLunSnapshotNotPossible）	リスク	Volume	警告

影響範囲：構成

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
igroup でサポートされないオペレーティング システムに LUN をマッピング（igroupUnsupportedOsType）	リスク	LUN	警告

影響範囲：パフォーマンス

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
LUN IOPS の重大しきい値を超過（ocumLunIopsIncident）	インシデント	LUN	重大
LUN IOPS の警告しきい値を超過（ocumLunIopsWarning）	リスク	LUN	警告
LUN MBps の重大しきい値を超過（ocumLunMbpsIncident）	インシデント	LUN	重大
LUN MBps の警告しきい値を超過（ocumLunMbpsWarning）	リスク	LUN	警告
LUN レイテンシ（ミリ秒/処理）の重大しきい値を超過（ocumLunLatencyIncident）	インシデント	LUN	重大
LUN レイテンシ（ミリ秒/処理）の警告しきい値を超過（ocumLunLatencyWarning）	リスク	LUN	警告
LUN レイテンシ / LUN IOPS の重大しきい値を超過（ocumLunLatencyIopsIncident）	インシデント	LUN	重大
LUN レイテンシ / LUN IOPS の警告しきい値を超過（ocumLunLatencyIopsWarning）	リスク	LUN	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
LUN レイテンシ / LUN MBps の重大しきい値を超過（ocumLunLatencyMbpsIncident）	インシデント	LUN	重大
LUN レイテンシ / LUN MBps の警告しきい値を超過（ocumLunLatencyMbpsWarning）	リスク	LUN	警告
LUNレイテンシ / アグリゲート使用済みパフォーマンス容量の重大しきい値を超過（ocumLunLatencyAggregatePerfCapacityUsedIncident）	インシデント	LUN	重大
LUNレイテンシ / アグリゲート使用済みパフォーマンス容量の警告しきい値を超過（ocumLunLatencyAggregatePerfCapacityUsedWarning）	リスク	LUN	警告
LUN レイテンシ / アグリゲート利用率の重大しきい値を超過（ocumLunLatencyAggregateUtilizationIncident）	インシデント	LUN	重大
LUN レイテンシ / アグリゲート利用率の警告しきい値を超過（ocumLunLatencyAggregateUtilizationWarning）	リスク	LUN	警告
LUN レイテンシ / ノード使用済みパフォーマンス容量の重大しきい値を超過（ocumLunLatencyNodePerfCapacityUsedIncident）	インシデント	LUN	重大

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
LUN レイテンシ / ノード使用済みパフォーマンス容量の警告しきい値を超過（ocumLunLatencyNodePerfCapacityUsedWarning）	リスク	LUN	警告
LUNレイテンシ / ノードの使用済みパフォーマンス容量 - テイクオーバーの重大しきい値を超過（ocumLunLatencyAggregatePerfCapacityUsedTakeoverIncident）	インシデント	LUN	重大
LUNレイテンシ / ノードの使用済みパフォーマンス容量 - テイクオーバーの警告しきい値を超過（ocumLunLatencyAggregatePerfCapacityUsedTakeoverWarning）	リスク	LUN	警告
LUN レイテンシ / ノード利用率の重大しきい値を超過（ocumLunLatencyNodeUtilizationIncident）	インシデント	LUN	重大
LUN レイテンシ / ノード利用率の警告しきい値を超過（ocumLunLatencyNodeUtilizationWarning）	リスク	LUN	警告
QoS LUN 最大 IOPS の警告しきい値を超過（ocumQosLunMaxIopsWarning）	リスク	LUN	警告
QoS LUN 最大 MBps の警告しきい値を超過（ocumQosLunMaxMbpsWarning）	リスク	LUN	警告
パフォーマンス サービスレベル ポリシーに定義されたワークロードの LUN レイテンシしきい値を超過（ocumConformanceLatencyWarning）	リスク	LUN	警告

Active IQ Unified Manager の管理ステーション イベントについて

管理ステーションのイベントは、Unified Manager がインストールされているサーバーの状態に関する情報を提供するため、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：構成

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
管理サーバのディスク スペースがほぼフル（ocumEvtUnifiedManagerDiskSpaceNearlyFull）	リスク	管理ステーション	警告
管理サーバのディスク スペースがフル（ocumEvtUnifiedManagerDiskSpaceFull）	インシデント	管理ステーション	重大
管理サーバのメモリが減少（ocumEvtUnifiedManagerMemoryLow）	リスク	管理ステーション	警告
管理サーバのメモリがほとんどなし（ocumEvtUnifiedManagerMemoryAlmostOut）	インシデント	管理ステーション	重大
MySQL ログ ファイルのサイズを拡張（再起動が必要）（ocumEvtMysqlLogFileSizeWarning）	インシデント	管理ステーション	警告
監査ログの合計サイズがまもなく最大割り当てに到達	リスク	管理ステーション	警告
syslog サーバ証明書の有効期間がまもなく終了	リスク	管理ステーション	警告
syslog サーバ証明書の有効期間が終了	リスク	管理ステーション	エラー
監査ログ ファイルが改ざん	リスク	管理ステーション	警告
監査ログ ファイルが削除	リスク	管理ステーション	警告
syslog サーバ接続エラー	リスク	管理ステーション	エラー
syslog サーバ構成が変更	イベント	管理ステーション	警告

影響範囲：パフォーマンス

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
パフォーマンス データ分析への影響（ocumEvtUnifiedManagerDataMissingAnalyze）	リスク	管理ステーション	警告
パフォーマンス データ収集への影響（ocumEvtUnifiedManagerDataMissingCollection）	インシデント	管理ステーション	重大

最後の2つのパフォーマンス イベントは、Unified Manager 7.2でのみ使用されていたものです。これらのいずれかのイベントが新規の状態で存在している場合、Unified Managerソフトウェアを新しいバージョンにアップグレードしたときにイベントは自動的にパージされません。これらのイベントについては、手動で解決済みの状態にする必要があります。

Active IQ Unified Manager の **MetroCluster** ブリッジイベントについて

MetroClusterブリッジ イベントは、ブリッジのステータス情報を提供します。これにより、MetroCluster over FC構成の潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ブリッジに到達不能（ocumEvtBridgeUnreachable）	インシデント	MetroCluster ブリッジ	重大
ブリッジの温度が異常（ocumEvtBridgeTemperatureAbnormal）	インシデント	MetroCluster ブリッジ	重大

Active IQ Unified Manager の **MetroCluster** 接続イベントについて

接続イベントは、クラスタ内のコンポーネント間の接続、およびMetroCluster over FC構成およびMetroCluster over IP構成内のクラスタ間の接続に関する情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

両方の構成に共通のイベント

次の接続イベントは、MetroCluster over FC構成とMetroCluster over IP構成に共通です。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
MetroCluster パートナー間のすべてのリンクが停止（ocumEvtMetroClusterAllLinksBetweenPartnersDown）	インシデント	MetroCluster関係	重大
MetroCluster パートナーにピアリング ネットワーク経由で到達不能（ocumEvtMetroClusterPartnersNotReachableOverPeeringNetwork）	インシデント	MetroCluster関係	重大
MetroCluster ディザスタリカバリ機能への影響（ocumEvtMetroClusterDRStatusImpacted）	リスク	MetroCluster関係	重大
MetroCluster 構成をスイッチオーバー（ocumEvtMetroClusterDRStatusImpacted）	リスク	MetroCluster関係	警告

MetroCluster over FC構成

次のイベントは、MetroCluster over FC構成に関係します。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
すべてのスイッチ間リンクが停止（ocumEvtMetroClusterAllISLBetweenSwitchesDown）	インシデント	MetroClusterスイッチ間の接続	重大
FC-SAS ブリッジからストレージ スタックへのリンクが停止（ocumEvtBridgeSasPortDown）	インシデント	MetroClusterブリッジのスタック接続	重大
MetroCluster 構成を一部スイッチオーバー（ocumEvtMetroClusterDRStatusPartiallyImpacted）	リスク	MetroCluster関係	エラー

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ノードから FC スイッチへのすべての FC-VI インターコネクト リンクが停止（ocumEvtMccNodeSwitchFcviLinksDown）	インシデント	MetroClusterノードのスイッチ接続	重大
ノードから FC スイッチへの一部の FC イニシエータ リンクが停止（ocumEvtMccNodeSwitchFcLinksOneOrMoreDown）	リスク	MetroClusterノードのスイッチ接続	警告
ノードから FC スイッチへのすべての FC イニシエータ リンクが停止（ocumEvtMccNodeSwitchFcLinksDown）	インシデント	MetroClusterノードのスイッチ接続	重大
スイッチから FC-SAS ブリッジへの FC リンクが停止（ocumEvtMccSwitchBridgeFcLinksDown）	インシデント	MetroClusterスイッチのブリッジ接続	重大
ノード間のすべての FC-VI インターコネクト リンクが停止（ocumEvtMccInterNodeLinksDown）	インシデント	ノード間の接続	重大
ノード間の一部の FC-VI インターコネクト リンクが停止（ocumEvtMccInterNodeLinksOneOrMoreDown）	リスク	ノード間の接続	警告
ノードからブリッジへのリンクが停止（ocumEvtMccNodeBridgeLinksDown）	インシデント	ノードのブリッジ接続	重大
ノードからストレージ スタックへのすべての SAS リンクが停止（ocumEvtMccNodeStackLinksDown）	インシデント	ノードのスタック接続	重大
ノードからストレージ スタックへの一部の SAS リンクが停止（ocumEvtMccNodeStackLinksOneOrMoreDown）	リスク	ノードのスタック接続	警告

MetroCluster over IP構成

次のイベントは、MetroCluster over IP構成に関係します。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
MetroCluster IP サイト間接続ステータスが停止（mccIntersiteconnectivityStatusDown）	リスク	MetroCluster関係	重大
MetroCluster IP ノードからスイッチへの接続がオフライン（mccIpPortStatusOffline）	リスク	ノード	エラー

MetroCluster スイッチイベントについて Active IQ Unified Manager で学ぶ

MetroCluster over FC構成についてのMetroClusterスイッチ イベントは、MetroClusterスイッチのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
スイッチの温度が異常（ocumEvtSwitchTemperatureAbnormal）	インシデント	MetroCluster スイッチ	重大
スイッチに到達不能（ocumEvtSwitchUnreachable）	インシデント	MetroCluster スイッチ	重大
スイッチのファンに障害（ocumEvtSwitchFansOneOrMoreFailed）	インシデント	MetroCluster スイッチ	重大
スイッチの電源装置に障害（ocumEvtSwitchPowerSuppliesOneOrMoreFailed）	インシデント	MetroCluster スイッチ	重大

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
スイッチの温度センサーに障害（ocumEvtSwitchTemperatureSensorFailed） このイベントはCiscoスイッチにのみ関係します。	インシデント	MetroCluster スイッチ	重大

Active IQ Unified Manager の **NVMe** 名前空間イベントについて

NVMeネームスペース イベントは、ネームスペースのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

アスタリスク（*）は、EMSイベントがUnified Managerイベントに変換されたことを示します。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
NVMeNS オフライン *（nvmeNamespaceStatusOffline）	イベント	ネームスペース	情報
NVMeNSオンライン*（nvmeNamespaceStatusOnline）	イベント	ネームスペース	情報
NVMeNS 容量不足 *（nvmeNamespaceSpaceOutOfSpace）	リスク	ネームスペース	警告
NVMeNS を破棄します *（nvmeNamespaceDestroy）	イベント	ネームスペース	情報

影響範囲：パフォーマンス

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
NVMe ネームスペース IOPS の重大しきい値を超過（ocumNvmeNamespaceIopsIncident）	インシデント	ネームスペース	重大

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
NVMe ネームスペース IOPS の警告しきい値を超過（ocumNvmeNamespaceIopsWarning）	リスク	ネームスペース	警告
NVMe ネームスペース MBps の重大しきい値を超過（ocumNvmeNamespaceMbpsIncident）	インシデント	ネームスペース	重大
NVMe ネームスペース MBps の警告しきい値を超過（ocumNvmeNamespaceMbpsWarning）	リスク	ネームスペース	警告
NVMe ネームスペース レイテンシ（ミリ秒/処理）の重大しきい値を超過（ocumNvmeNamespaceLatencyIncident）	インシデント	ネームスペース	重大
NVMe ネームスペース レイテンシ（ミリ秒/処理）の警告しきい値を超過（ocumNvmeNamespaceLatencyWarning）	リスク	ネームスペース	警告
NVMe ネームスペース レイテンシ / IOPS の重大しきい値を超過（ocumNvmeNamespaceLatencyIopsIncident）	インシデント	ネームスペース	重大
NVMe ネームスペース レイテンシ / IOPS の警告しきい値を超過（ocumNvmeNamespaceLatencyIopsWarning）	リスク	ネームスペース	警告
NVMe ネームスペース レイテンシ / MBps の重大しきい値を超過（ocumNvmeNamespaceLatencyMbpsIncident）	インシデント	ネームスペース	重大
NVMe ネームスペース レイテンシ / MBps の警告しきい値を超過（ocumNvmeNamespaceLatencyMbpsWarning）	リスク	ネームスペース	警告

Active IQ Unified Manager のノードイベントについて

ノード イベントは、ノードのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

アスタリスク（*）は、EMSイベントがUnified Managerイベントに変換されたことを示します。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ノードのルート ボリュームのスペースがほぼフル（ocumEvtClusterNodeRootVolumeSpaceNearlyFull）	リスク	ノード	警告
AWSクラウドMetaDataConnFail*（ocumCloudAwsMetadataConnFail）	リスク	ノード	エラー
クラウド AWS IAMCredsExpired *（ocumCloudAwsIamCredsExpired）	リスク	ノード	エラー
クラウド AWS IAMCredsInvalid *（ocumCloudAwsIamCredsInvalid）	リスク	ノード	エラー
クラウド AWS IAMCredsNotFound *（ocumCloudAwsIamCredsNotFound）	リスク	ノード	エラー
クラウド AWS IAMCredsNotInitialized *(ocumCloudAwsIamCredsNotInitialized)	イベント	ノード	情報
クラウド AWS IAMRoleInvalid *（ocumCloudAwsIamRoleInvalid）	リスク	ノード	エラー
クラウド AWS IAMRoleNotFound *（ocumCloudAwsIamRoleNotFound）	リスク	ノード	エラー

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
クラウドティアホストが解決できません *（ocumObjstoreHostUnresolvable）	リスク	ノード	エラー
クラウド層クラスタ間ネットワークインターフェースダウン *（ocumObjstoreInterClusterLifDown）	リスク	ノード	エラー
NFSv4プールの1つが枯渇しました *（nbladeNfsv4PoolEXhaust）	インシデント	ノード	重大
リクエストの不一致クラウドティア署名 *（oscSignatureMismatch）	リスク	ノード	エラー

影響範囲：容量

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
QoSモニターメモリ最大*（ocumQosMonitorMemoryMaxed）	リスク	ノード	エラー
QoSモニターメモリが軽減されました*（ocumQosMonitorMemoryAbated）	イベント	ノード	情報

影響範囲：構成

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ノードの名前を変更（該当なし）	イベント	ノード	情報

影響範囲：パフォーマンス

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ノード IOPS の重大しきい値を超過（ocumNodeIopsIncident）	インシデント	ノード	重大

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ノード IOPS の警告しきい値を超過（ocumNodeIopsWarning）	リスク	ノード	警告
ノード MBps の重大しきい値を超過（ocumNodeMbpsIncident）	インシデント	ノード	重大
ノード MBps の警告しきい値を超過（ocumNodeMbpsWarning）	リスク	ノード	警告
ノード レイテンシ（ミリ秒/処理）の重大しきい値を超過（ocumNodeLatencyIncident）	インシデント	ノード	重大
ノード レイテンシ（ミリ秒/処理）の警告しきい値を超過（ocumNodeLatencyWarning）	リスク	ノード	警告
ノード使用済みパフォーマンス容量の重大しきい値を超過（ocumNodePerfCapacityUsedIncident）	インシデント	ノード	重大
ノード使用済みパフォーマンス容量の警告しきい値を超過（ocumNodePerfCapacityUsedWarning）	リスク	ノード	警告
ノード使用済みパフォーマンス容量 - テイクオーバーの重大しきい値を超過（ocumNodePerfCapacityUsedTakeoverIncident）	インシデント	ノード	重大
ノード使用済みパフォーマンス容量 - テイクオーバーの警告しきい値を超過（ocumNodePerfCapacityUsedTakeoverWarning）	リスク	ノード	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ノード利用率の重大しきい値を超過（ocumNodeUtilizationIncident）	インシデント	ノード	重大
ノード利用率の警告しきい値を超過（ocumNodeUtilizationWarning）	リスク	ノード	警告
利用率の高いノード HA ペアの情報しきい値を超過（ocumNodeHaPairOverUtilizedInformation）	イベント	ノード	情報
ノード ディスク断片化の警告しきい値を超過（ocumNodeDiskFragmentationWarning）	リスク	ノード	警告
使用済みパフォーマンス容量しきい値を超過（ocumNodeOverUtilizedWarning）	リスク	ノード	警告
ノード動的イベントの警告しきい値を超過（ocumNodeDynamicEventWarning）	リスク	ノード	警告

影響領域：セキュリティ

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
アドバイザリID：NTAP-<*advisory ID*>（ocumx）	リスク	ノード	重大

Active IQ Unified Manager の **NVRAM** バッテリーイベントについて

NVRAMバッテリ イベントは、バッテリのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
NVRAM バッテリ低下（ocumEvtNvramBatteryLow）	リスク	ノード	警告
NVRAM バッテリ放電（ocumEvtNvramBatteryDischarged）	リスク	ノード	エラー
NVRAM バッテリ過充電（ocumEvtNvramBatteryOverCharged）	インシデント	ノード	重大

Active IQ Unified Manager のポートイベントについて

ポート イベントは、クラスタ ポートのステータスを提供して、ポートでの変更や問題（ポートがダウンしているかどうかなど）を監視できるようにします。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ポート ステータス - 停止（ocumEvtPortStatusDown）	インシデント	ノード	重大

影響範囲：パフォーマンス

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ネットワーク ポート MBps の重大しきい値を超過（ocumNetworkPortMbpsIncident）	インシデント	ポート	重大
ネットワーク ポート MBps の警告しきい値を超過（ocumNetworkPortMbpsWarning）	リスク	ポート	警告
FCP ポート MBps の重大しきい値を超過（ocumFcpPortMbpsIncident）	インシデント	ポート	重大
FCP ポート MBps の警告しきい値を超過（ocumFcpPortMbpsWarning）	リスク	ポート	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ネットワーク ポート利用率の重大しきい値を超過（ocumNetworkPortUtilizationIncident）	インシデント	ポート	重大
ネットワーク ポート利用率の警告しきい値を超過（ocumNetworkPortUtilizationWarning）	リスク	ポート	警告
FCP ポート利用率の重大しきい値を超過（ocumFcpPortUtilizationIncident）	インシデント	ポート	重大
FCP ポート利用率の警告しきい値を超過（ocumFcpPortUtilizationWarning）	リスク	ポート	警告

Active IQ Unified Manager の電源装置イベントについて

電源装置イベントは、ハードウェアのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
1 つ以上の電源装置に障害（ocumEvtPowerSupplyOneOrMoreFailed）	インシデント	ノード	重大

Active IQ Unified Manager の保護イベントについて

保護イベントは、ジョブの失敗や中止を通知して、問題を監視できるようにします。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：保護

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
保護ジョブ失敗（ocumEvtProtectionJobTaskFailed）	インシデント	ボリュームまたはストレージ サービス	重大

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
保護ジョブ中止（ocumEvtProtectionJobAborted）	リスク	ボリュームまたはストレージ サービス	警告

Active IQ Unified Manager の **Qtree** イベントについて

qtreeイベントは、qtreeの容量やファイルとディスクの制限に関する情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：容量

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
qtree スペースがほぼフル（ocumEvtQtreeSpaceNearlyFull）	リスク	qtree	警告
qtree スペースがフル（ocumEvtQtreeSpaceFull）	リスク	qtree	エラー
qtree のスペースが正常（ocumEvtQtreeSpaceThresholdOk）	イベント	qtree	情報
qtree のファイル数がハード リミットに到達（ocumEvtQtreeFilesHardLimitReached）	インシデント	qtree	重大
qtree のファイル数がソフト リミットを超過（ocumEvtQtreeFilesSoftLimitBreached）	リスク	qtree	警告
qtree のスペースがハード リミットに到達（ocumEvtQtreeSpaceHardLimitReached）	インシデント	qtree	重大
qtree のスペースがソフト リミットを超過（ocumEvtQtreeSpaceSoftLimitBreached）	リスク	qtree	警告

Active IQ Unified Manager のサービスプロセッサイベントについて

サービス プロセッサ イベントは、プロセッサのステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
サービス プロセッサが未設定（ocumEvtServiceProcessorNotConfigured）	リスク	ノード	警告
サービス プロセッサはオフライン（ocumEvtServiceProcessorOffline）	リスク	ノード	エラー

Active IQ Unified Manager の **SnapMirror** 関係イベントについて

SnapMirror関係イベントは、非同期SnapMirror関係と同期SnapMirror関係のステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。非同期SnapMirror関係イベントはStorage VMとボリュームの両方について生成されますが、同期SnapMirror関係イベントはボリューム関係についてのみ生成されます。Storage VMディザスタ リカバリ関係を構成するコンスティチュエント ボリュームについてはイベントは生成されません。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：保護

アスタリスク（*）は、EMSイベントがUnified Managerイベントに変換されたことを示します。

SnapMirror関係イベントは、Storage VMディザスタ リカバリで保護されているStorage VMについて生成されますが、コンスティチュエント オブジェクトの関係については生成されません。

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ミラー レプリケーションは正常でない（ocumEvtSnapmirrorRelationshipUnhealthy）	リスク	SnapMirror関係	警告
ミラー レプリケーションを切断（ocumEvtSnapmirrorRelationshipStateBrokenoff）	リスク	SnapMirror関係	エラー
ミラー レプリケーションの初期化失敗（ocumEvtSnapmirrorRelationshipInitializeFailed）	リスク	SnapMirror関係	エラー

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ミラー レプリケーションの更新失敗（ocumEvtSnapmirrorRelationshipUpdateFailed）	リスク	SnapMirror関係	エラー
ミラー レプリケーションの遅延エラー（ocumEvtSnapMirrorRelationshipLagError）	リスク	SnapMirror関係	エラー
ミラー レプリケーションの遅延警告（ocumEvtSnapMirrorRelationshipLagWarning）	リスク	SnapMirror関係	警告
ミラー レプリケーションの再同期失敗（ocumEvtSnapmirrorRelationshipResyncFailed）	リスク	SnapMirror関係	エラー
同期レプリケーションが同期していません *（syncSnapmirrorRelationshipOutofsync）	リスク	SnapMirror関係	警告
同期レプリケーションが復元されました *（syncSnapmirrorRelationshipInSync）	イベント	SnapMirror関係	情報
同期レプリケーションの自動再同期が失敗しました *（syncSnapmirrorRelationshipAutoSyncRetryFailed）	リスク	SnapMirror関係	エラー
ONTAP Mediator をクラスタに追加（snapmirrorMediatorAdded）	イベント	クラスタ	情報
ONTAP Mediator をクラスタから削除（snapmirrorMediatorRemoved）	イベント	クラスタ	情報
ONTAP Mediator にクラスタから到達不能（snapmirrorMediatorUnreachable）	リスク	メディエーター	警告
ONTAP Mediator にクラスタからアクセス不能（snapmirrorMediatorMisconfigured）	リスク	メディエーター	エラー

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ONTAP Mediator接続を再確立して再同期、SnapMirrorアクティブ同期の準備完了（snapmirrorMediatorInQuorum）	イベント	メディエーター	情報

Active IQ Unified Manager における非同期ミラーと **Vault** の関係イベントについて

非同期ミラー バックアップ関係イベントは、非同期SnapMirror関係とバックアップ関係のステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。非同期ミラー バックアップ関係イベントは、ボリュームとStorage VMの両方の保護関係についてサポートされます。ただし、Storage VMディザスタ リカバリのバックアップ関係はサポートされません。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：保護

SnapMirror関係とバックアップ関係のイベントは、Storage VMディザスタ リカバリで保護されているStorage VMについても生成されますが、コンスティチュエント オブジェクトの関係については生成されません。

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
非同期ミラー バックアップは正常でない（ocumEvtMirrorVaultRelationshipUnhealthy）	リスク	SnapMirror関係	警告
非同期ミラー バックアップを切断（ocumEvtMirrorVaultRelationshipStateBrokenoff）	リスク	SnapMirror関係	エラー
非同期ミラー バックアップの初期化失敗（ocumEvtMirrorVaultRelationshipInitializeFailed）	リスク	SnapMirror関係	エラー
非同期ミラー バックアップの更新失敗（ocumEvtMirrorVaultRelationshipUpdateFailed）	リスク	SnapMirror関係	エラー
非同期ミラー バックアップの遅延エラー（ocumEvtMirrorVaultRelationshipLagError）	リスク	SnapMirror関係	エラー

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
非同期ミラー バックアップの遅延警告（ocumEvtMirrorVaultRelationshipLagWarning）	リスク	SnapMirror関係	警告
非同期ミラー バックアップの再同期失敗（ocumEvtMirrorVaultRelationshipResyncFailed）	リスク	SnapMirror関係	エラー

「SnapMirror 更新失敗」イベントは、Active IQポータル（Config Advisor）から生成されます。

Active IQ Unified Manager のスナップショットイベントについて

Snapshotイベントは、Snapshotのステータス情報を提供します。これにより、Snapshotの潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
Snapshot の自動削除が無効（該当なし）	イベント	Volume	情報
Snapshot の自動削除が有効（該当なし）	イベント	Volume	情報
Snapshot の自動削除の設定を変更（該当なし）	イベント	Volume	情報

Active IQ Unified Manager の **SnapVault** 関係イベントについて

SnapVault関係イベントは、SnapVault関係のステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：保護

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
非同期バックアップは正常でない（ocumEvtSnapVaultRelationshipUnhealthy）	リスク	SnapMirror関係	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
非同期バックアップを切断（ocumEvtSnapVaultRelationshipStateBrokenoff）	リスク	SnapMirror関係	エラー
非同期バックアップの初期化失敗（ocumEvtSnapVaultRelationshipInitializeFailed）	リスク	SnapMirror関係	エラー
非同期バックアップの更新失敗（ocumEvtSnapVaultRelationshipUpdateFailed）	リスク	SnapMirror関係	エラー
非同期バックアップの遅延エラー（ocumEvtSnapVaultRelationshipLagError）	リスク	SnapMirror関係	エラー
非同期バックアップの遅延警告（ocumEvtSnapVaultRelationshipLagWarning）	リスク	SnapMirror関係	警告
非同期バックアップの再同期失敗（ocumEvtSnapvaultRelationshipResyncFailed）	リスク	SnapMirror関係	エラー

Active IQ Unified Manager のストレージフェイルオーバー設定イベントの詳細

ストレージ フェイルオーバー（SFO）の設定のイベントは、ストレージ フェイルオーバーが無効な状態または設定されていない状態に関する情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ストレージ フェイルオーバー インターコネクトの 1 つ以上のリンクが停止（ocumEvtSfoInterconnectOneOrMoreLinksDown）	リスク	ノード	警告
ストレージ フェイルオーバーが無効（ocumEvtSfoSettingsDisabled）	リスク	ノード	エラー

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ストレージ フェイルオーバーが未設定（ocumEvtSfoSettingsNotConfigured）	リスク	ノード	エラー
ストレージ フェイルオーバーの状態 - テイクオーバー（ocumEvtSfoStateTakeover）	リスク	ノード	警告
ストレージ フェイルオーバーの状態 - 部分的なギブバック（ocumEvtSfoStatePartialGiveback）	リスク	ノード	エラー
ストレージ フェイルオーバー ノード ステータス - 停止（ocumEvtSfoNodeStatusDown）	リスク	ノード	エラー
ストレージ フェイルオーバーのテイクオーバー実行不可（ocumEvtSfoTakeoverNotPossible）	リスク	ノード	エラー

Active IQ Unified Manager のストレージサービスイベントについて

ストレージ サービス イベントは、ストレージ サービスの作成とサブスクリプションに関する情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：構成

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ストレージ サービスを作成（該当なし）	イベント	ストレージ サービス	情報
ストレージ サービスをサブスクライブ（該当なし）	イベント	ストレージ サービス	情報
ストレージ サービスをアンサブスクライブ（該当なし）	イベント	ストレージ サービス	情報

影響範囲：保護

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
管理対象 SnapMirror 関係の予期しない削除（ocumEvtStorageServiceUnsupportedRelationshipDeletion）	リスク	ストレージ サービス	警告
ストレージ サービス メンバー ボリュームの予期しない削除（ocumEvtStorageServiceUnexpectedVolumeDeletion）	インシデント	ストレージ サービス	重大

Active IQ Unified Manager のストレージシェルフイベントについて

ストレージ シェルフ イベントは、ストレージ シェルフが異常な状態である場合に通知します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
異常な電圧範囲（ocumEvtShelfVoltageAbnormal）	リスク	ストレージ シェルフ	警告
異常な電流範囲（ocumEvtShelfCurrentAbnormal）	リスク	ストレージ シェルフ	警告
異常な温度（ocumEvtShelfTemperatureAbnormal）	リスク	ストレージ シェルフ	警告

Active IQ Unified Manager のストレージ **VM** イベントについて

Storage VM（Storage Virtual Machine、SVM）イベントは、Storage VM（SVM）のステータス情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

アスタリスク（*）は、EMSイベントがUnified Managerイベントに変換されたことを示します。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
Storage VM CIFSサービス停止（ocumEvtVserverCifsServiceStatusDown）	インシデント	SVM	重大
SVM CIFS サービス未設定（該当なし）	イベント	SVM	情報
存在しない CIFS 共有への接続試行 *（nbladeCifsNoPrivShare）	インシデント	SVM	重大
CIFS NetBIOS 名競合 *（nbladeCifsNbNameConflict）	リスク	SVM	エラー
CIFSシャドウコピー操作が失敗しました *（cifsShadowCopyFailure）	リスク	SVM	エラー
多数のCIFS接続 *（nbladeCifsManyAuths）	リスク	SVM	エラー
最大CIFS接続数を超えました *（nbladeCifsMaxOpenSameFile）	リスク	SVM	エラー
ユーザーあたりのCIFS接続の最大数を超えました*（nbladeCifsMaxSessPerUsrConn）	リスク	SVM	エラー
SVM FC / FCoE サービス停止（ocumEvtVserverFcServiceStatusDown）	インシデント	SVM	重大
SVM iSCSI サービス停止（ocumEvtVserverIscsiServiceStatusDown）	インシデント	SVM	重大
Storage VM NFSサービス停止（ocumEvtVserverNfsServiceStatusDown）	インシデント	SVM	重大
SVM FC / FCoE サービス未設定（該当なし）	イベント	SVM	情報
SVM iSCSI サービス未設定（該当なし）	イベント	SVM	情報

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
SVM NFS サービス未設定（該当なし）	イベント	SVM	情報
Storage VM停止（ocumEvtVserverDown）	リスク	SVM	警告
AVサーバがビジー状態のため、新しいスキャン要求を受け付けられません *（nbladeVscanConnBackPressure）	リスク	SVM	エラー
ウイルススキャンのAVサーバ接続なし *（nbladeVscanNoScannerConn）	インシデント	SVM	重大
AVサーバが登録されていません*（nbladeVscanNoRegdScanner）	リスク	SVM	エラー
応答のないAVサーバ接続 *（nbladeVscanConnInactive）	イベント	SVM	情報
不正ユーザによるAVサーバへのアクセス試行 *（nbladeVscanBadUserPrivAccess）	リスク	SVM	エラー
AVサーバによるウイルス検出 *（nbladeVscanVirusDetected）	リスク	SVM	エラー

影響範囲：構成

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
SVM を検出（該当なし）	イベント	SVM	情報
SVM を削除（該当なし）	イベント	クラスタ	情報
SVM の名前を変更（該当なし）	イベント	SVM	情報

影響範囲：パフォーマンス

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
SVM IOPS の重大しきい値を超過（ocumSvmIopsIncident）	インシデント	SVM	重大
SVM IOPS の警告しきい値を超過（ocumSvmIopsWarning）	リスク	SVM	警告
SVM MBps の重大しきい値を超過（ocumSvmMbpsIncident）	インシデント	SVM	重大
SVM MBps の警告しきい値を超過（ocumSvmMbpsWarning）	リスク	SVM	警告
SVM レイテンシの重大しきい値を超過（ocumSvmLatencyIncident）	インシデント	SVM	重大
SVM レイテンシの警告しきい値を超過（ocumSvmLatencyWarning）	リスク	SVM	警告

影響領域：セキュリティ

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
監査ログが無効（ocumVserverAuditLogDisabled）	リスク	SVM	警告
ログイン バナーが無効（ocumVserverLoginBannerDisabled）	リスク	SVM	警告
SSH でセキュアでない暗号を使用（ocumVserverSSHInsecure）	リスク	SVM	警告
ログイン バナーを変更（ocumVserverLoginBannerChanged）	リスク	SVM	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
Storage VM のランサムウェア対策監視が無効になっています（antiRansomwareSvmStateDisabled）	リスク	SVM	警告
ストレージVMのランサムウェア対策監視が有効になっています（学習モード）（antiRansomwareSvmStateDryrun）	イベント	SVM	情報
Storage VM がランサムウェア対策監視に適合（学習モード）（ocumEvtSvmArwCandidate）	イベント	SVM	情報

Active IQ Unified Manager のユーザーおよびグループ クォータイベントについて

ユーザ クォータとグループ クォータのイベントは、ユーザ クォータとユーザ グループ クォータの容量およびファイルとディスクの制限に関する情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：容量

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ユーザ / グループ クォータのディスク スペースがソフト リミットを超過（ocumEvtUserOrGroupQuotaDiskSpaceSoftLimitBreached）	リスク	ユーザまたはグループ クォータ	警告
ユーザ / グループ クォータのディスク スペースがハード リミットに到達（ocumEvtUserOrGroupQuotaDiskSpaceHardLimitReached）	インシデント	ユーザまたはグループ クォータ	重大
ユーザ クォータまたはグループ クォータのファイル数がソフト リミットを超過（ocumEvtUserOrGroupQuotaFileCountSoftLimitBreached）	リスク	ユーザまたはグループ クォータ	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ユーザ クォータまたはグループ クォータのファイル数がハード リミットに到達（ocumEvtUserOrGroupQuotaFileCountHardLimitReached）	インシデント	ユーザまたはグループ クォータ	重大

Active IQ Unified Manager のボリュームイベントについて

ボリューム イベントは、ボリュームのステータスに関する情報を提供します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

アスタリスク（*）は、EMSイベントがUnified Managerイベントに変換されたことを示します。

影響範囲：可用性

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリュームは制限状態（ocumEvtVolumeRestricted）	リスク	Volume	警告
ボリュームはオフライン（ocumEvtVolumeOffline）	インシデント	Volume	重大
ボリュームは一部使用可能（ocumEvtVolumePartiallyAvailable）	リスク	Volume	エラー
ボリュームをアンマウント（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリュームをマウント（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリュームを再マウント（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリューム ジャンクション パスは非アクティブ（ocumEvtVolumeJunctionPathInactive）	リスク	Volume	警告
ボリュームのオートサイズを有効化（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリュームのオートサイズを無効化（該当なし）	イベント	Volume	情報

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリュームのオートサイズの最大容量を変更（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリュームのオートサイズの増分サイズを変更（該当なし）	イベント	Volume	情報

影響範囲：容量

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
シンプロビジョニング ボリュームにスペース リスクあり（ocumThinProvisionVolumeSpaceAtRisk）	リスク	Volume	警告
ボリューム効率化処理エラー（ocumEvtVolumeEfficiencyOperationError）	リスク	Volume	エラー
ボリューム スペースがフル（ocumEvtVolumeFull）	リスク	Volume	エラー
ボリューム スペースがほぼフル（ocumEvtVolumeNearlyFull）	リスク	Volume	警告
ボリューム論理領域がいっぱいです *（volumeLogicalSpaceFull）	リスク	Volume	エラー
ボリュームの論理領域がほぼ満杯です *（volumeLogicalSpaceNearlyFull）	リスク	Volume	警告
ボリューム論理スペース正常 *(volumeLogicalSpaceAllOK)	イベント	Volume	情報
ボリュームの Snapshot リザーブ スペースがフル（ocumEvtSnapshotFull）	リスク	Volume	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
Snapshot コピー数の上限を超過（ocumEvtSnapshotTooMany）	リスク	Volume	エラー
ボリュームの qtree クォータがオーバーコミット（ocumEvtVolumeQtreeQuotaOvercommitted）	リスク	Volume	エラー
ボリュームの qtree クォータがほぼオーバーコミット（ocumEvtVolumeQtreeQuotaAlmostOvercommitted）	リスク	Volume	警告
ボリュームの増加率 - 異常（ocumEvtVolumeGrowthRateAbnormal）	リスク	Volume	警告
ボリュームのフルまでの日数（ocumEvtVolumeDaysUntilFullSoon）	リスク	Volume	エラー
ボリュームのスペース ギャランティを無効化（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリュームのスペース ギャランティを有効化（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリュームのスペース ギャランティを変更（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリュームの Snapshot リザーブのフルまでの日数（ocumEvtVolumeSnapshotReserveDaysUntilFullSoon）	リスク	Volume	エラー
FlexGroupコンスティチュエントにスペースの問題があります *（flexGroupConstituentsHaveSpaceIssues）	リスク	Volume	エラー

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
FlexGroup構成要素スペースの状態 すべてOK *（flexGroupConstituentsSpaceStatusAllOK）	イベント	Volume	情報
FlexGroup構成要素にinodeの問題があります *（flexGroupConstituentsHaveInodesIssues）	リスク	Volume	エラー
FlexGroup構成要素のIノードの状態 すべてOK *(flexGroupConstituentsInodesStatusAllOK)	イベント	Volume	情報
WAFLボリューム AutoSize 失敗 *（waflVolAutoSizeFail）	リスク	Volume	エラー
WAFLボリュームAutoSize完了 *（waflVolAutoSizeDone）	イベント	Volume	情報
FlexGroupボリュームが80%以上利用されています*	インシデント	Volume	エラー
FlexGroupボリュームが90%以上利用されています*	インシデント	Volume	重大
ボリューム ストレージ効率の異常（ocumVolumeAbnormalStorageEfficiencyWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム Snapshot リザーブの使用率が低い（volumeSnaphotReserveUnderutilizedWarning）	イベント	Volume	警告
ボリューム Snapshot リザーブの使用率が低い（volumeSnaphotReserveUnderutilizedCleared）	イベント	Volume	警告

影響範囲：構成

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリュームの名前を変更（該当なし）	イベント	Volume	情報

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリュームを検出（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリュームを削除（該当なし）	イベント	Volume	情報

影響範囲：パフォーマンス

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
QoS ボリューム最大 IOPS の警告しきい値を超過（ocumQosVolumeMaxIopsWarning）	リスク	Volume	警告
QoS ボリューム最大 MBps の警告しきい値を超過（ocumQosVolumeMaxMbpsWarning）	リスク	Volume	警告
QoS ボリューム最大 IOPS/TB の警告しきい値を超過（ocumQosVolumeMaxIopsPerTbWarning）	リスク	Volume	警告
パフォーマンス サービス レベル ポリシーに定義されたワークロードのボリューム レイテンシしきい値を超過（ocumConformanceLatencyWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム IOPS の重大しきい値を超過（ocumVolumeIopsIncident）	インシデント	Volume	重大
ボリューム IOPS の警告しきい値を超過（ocumVolumeIopsWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム MBps の重大しきい値を超過（ocumVolumeMbpsIncident）	インシデント	Volume	重大

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリューム MBps の警告しきい値を超過（ocumVolumeMbpsWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム レイテンシの重大しきい値を超過（ocumVolumeLatencyIncident）	インシデント	Volume	重大
ボリューム レイテンシの警告しきい値を超過（ocumVolumeLatencyWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム キャッシュ ミス率の重大しきい値を超過（ocumVolumeCacheMissRatioIncident）	インシデント	Volume	重大
ボリューム キャッシュ ミス率の警告しきい値を超過（ocumVolumeCacheMissRatioWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム レイテンシ / IOPS の重大しきい値を超過（ocumVolumeLatencyIopsIncident）	インシデント	Volume	重大
ボリューム レイテンシ / IOPS の警告しきい値を超過（ocumVolumeLatencyIopsWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム レイテンシ / MBps の重大しきい値を超過（ocumVolumeLatencyMbpsIncident）	インシデント	Volume	重大
ボリューム レイテンシ / MBps の警告しきい値を超過（ocumVolumeLatencyMbpsWarning）	リスク	Volume	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリューム レイテンシ / アグリゲートの使用済みパフォーマンス容量の重大しきい値を超過（ocumVolumeLatencyAggregatePerfCapacityUsedIncident）	インシデント	Volume	重大
ボリューム レイテンシ / アグリゲートの使用済みパフォーマンス容量の警告しきい値を超過（ocumVolumeLatencyAggregatePerfCapacityUsedWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム レイテンシ / アグリゲート利用率の重大しきい値を超過（ocumVolumeLatencyAggregateUtilizationIncident）	インシデント	Volume	重大
ボリューム レイテンシ / アグリゲート利用率の警告しきい値を超過（ocumVolumeLatencyAggregateUtilizationWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム レイテンシ / ノードの使用済みパフォーマンス容量の重大しきい値を超過（ocumVolumeLatencyNodePerfCapacityUsedIncident）	インシデント	Volume	重大
ボリューム レイテンシ / ノードの使用済みパフォーマンス容量の警告しきい値を超過（ocumVolumeLatencyNodePerfCapacityUsedWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム レイテンシ / ノードの使用済みパフォーマンス容量 - テイクオーバーの重大しきい値を超過（ocumVolumeLatencyAggregatePerfCapacityUsedTakeoverIncident）	インシデント	Volume	重大

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリューム レイテンシ / ノードの使用済みパフォーマンス容量 - テイクオーバーの警告しきい値を超過（ocumVolumeLatencyAggregatePerfCapacityUsedTakeoverWarning）	リスク	Volume	警告
ボリューム レイテンシ / ノード利用率の重大しきい値を超過（ocumVolumeLatencyNodeUtilizationIncident）	インシデント	Volume	重大
ボリューム レイテンシ / ノード利用率の警告しきい値を超過（ocumVolumeLatencyNodeUtilizationWarning）	リスク	Volume	警告

影響領域：セキュリティ

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリュームランサムウェア監視が有効になっています（アクティブモード）（antiRansomwareVolumeStateEnabled）	イベント	Volume	情報
ボリュームランサムウェア監視は無効になっています（antiRansomwareVolumeStateDisabled）	リスク	Volume	警告
ボリュームランサムウェア監視が有効になっています（学習モード）（antiRansomwareVolumeStateDryrun）	イベント	Volume	情報
ボリュームランサムウェア監視は一時停止されています（学習モード）（antiRansomwareVolumeStateDryrunPaused）	リスク	Volume	警告

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリュームのランサムウェア対策監視が一時停止されています（アクティブモード）（antiRansomwareVolumeStateEnablePaused）	リスク	Volume	警告
ボリュームランサムウェア監視は無効化中です（antiRansomwareVolumeStateDisableInProgress）	リスク	Volume	警告
ランサムウェア活動が確認されました（callHomeRansomwareActivitySeen）	インシデント	Volume	重大
ボリュームがランサムウェア対策監視に適合（学習モード）（ocumEvtVolumeArwCandidate）	イベント	Volume	情報
ボリュームがランサムウェア対策監視に適合（アクティブ モード）（ocumVolumeSuitedForActiveAntiRansomwareDetection）	リスク	Volume	警告
ボリュームにランサムウェア対策のアラートあり（antiRansomwareFeatureNoisyVolume）	リスク	Volume	警告

影響範囲：データ保護

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリュームでローカル Snapshot の保護が十分でない（volumeLacksLocalProtectionWarning）	リスク	Volume	警告
ボリュームでローカル Snapshot の保護が十分でない（volumeLacksLocalProtectionCleared）	リスク	Volume	警告

Active IQ Unified Manager のボリューム移動ステータスイベントについて

ボリューム移動のステータスのイベントは、ボリューム移動のステータスについて通知します。これにより、潜在的な問題を監視できます。影響範囲別にイベントがまとめられ、イベント名とトラップ名、影響レベル、ソース タイプ、および重大度が表示されます。

影響範囲：容量

イベント名（トラップ名）	影響レベル	ソース タイプ	重大度
ボリューム移動ステータス：進行中（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリューム移動ステータス - 失敗（ocumEvtVolumeMoveFailed）	リスク	Volume	エラー
ボリューム移動ステータス：完了（該当なし）	イベント	Volume	情報
ボリューム移動ステータス - カットオーバー保留（ocumEvtVolumeMoveCutoverDeferred）	リスク	Volume	警告

イベントのウィンドウとダイアログ ボックスの説明

Active IQ Unified Manager の通知ページについて

Unified Managerサーバでは、イベントが生成されたときやユーザに割り当てられたときに通知を送信するように設定することができます。また、通知メカニズムを設定することもできます。たとえば、通知をEメールやSNMPトラップとして送信できます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

Eメール

この領域では、アラート通知に対して次のEメール設定を行うことができます。

- 送信元アドレス

  アラート通知の送信元となるメールアドレスを指定します。この値は、レポートを共有する際の送信元アドレスとしても使用されます。[送信元アドレス]に「ActiveIQUnifiedManager@localhost.com」というアドレスが事前に入力されている場合、すべてのEメール通知が正しく送信されるように実際のEメール アドレスに変更する必要があります。

SMTPサーバ

この領域では、次のSMTPサーバ設定を行うことができます。

- ホスト名または**IP**アドレス

  SMTPホスト サーバのホスト名を指定します。このホスト名は、指定した受信者へのアラート通知の送信に使用されます。

- ユーザー名

  SMTPユーザ名を指定します。SMTPユーザ名は、SMTPサーバでSMTPAUTHが有効になっている場合にのみ必要です。

- パスワード

  SMTPパスワードを指定します。SMTPユーザ名は、SMTPサーバでSMTPAUTHが有効になっている場合にのみ必要です。

- ポート

  アラート通知を送信するSMTPホスト サーバで使用されるポートを指定します。

  デフォルト値は25です。

- **START/TLS**を使用する

  このチェック ボックスをオンにすると、TLS/SSLプロトコル（start_tlsおよびStartTLSとも表記）を使用してSMTPサーバと管理サーバの間のセキュアな通信が確立されます。

- **SSL**を使用する

  このチェック ボックスをオンにすると、SSLプロトコルを使用してSMTPサーバと管理サーバの間のセキュアな通信が確立されます。

SNMP

この領域では、次のSNMPトラップ設定を行うことができます。

- バージョン

  必要なセキュリティのタイプに応じて、使用するSNMPバージョンを指定します。[バージョン 1]、[バージョン 3]、[バージョン 3、認証を使用]、[バージョン 3、認証と暗号化を使用]の各オプションがあります。デフォルト値は[バージョン 1]です。

- トラップ宛先ホスト

  管理サーバによって送信されるSNMPトラップを受信するホスト名またはIPアドレス（IPv4またはIPv6）を指定します。トラップの送信先を複数指定するには、各ホストをカンマで区切ります。

  > 他のすべてのSNMP設定（バージョンやアウトバウンド ポートなど）がリスト内のすべてのホストで同じである必要があります。

- アウトバウンドトラップポート

  管理サーバによって送信されるトラップをSNMPサーバが受信する際に使用するポートを指定します。

デフォルト値は162です。

- コミュニティ

  ホストにアクセスするためのコミュニティ ストリングです。

- エンジンID

  SNMPエージェントの一意の識別子を指定します。この識別子は、管理サーバによって自動的に生成されます。[エンジン ID]は、[SNMP バージョン 3]、[SNMP バージョン 3、認証を使用]、および[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

- ユーザー名

  SNMPユーザ名を指定します。[ユーザ名]は、[SNMP バージョン 3]、[SNMP バージョン 3、認証を使用]、および[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

- 認証プロトコル

  ユーザの認証に使用するプロトコルを指定します。プロトコルのオプションには[MD5]と[SHA]があります。デフォルト値は[MD5]です。[認証プロトコル]は、[SNMP バージョン 3、認証を使用]および[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

- 認証パスワード

  ユーザの認証時に使用するパスワードを指定します。[認証パスワード]は、[SNMP バージョン 3、認証を使用]および[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

- プライバシープロトコル

  SNMPメッセージの暗号化に使用するプライバシー プロトコルを指定します。プロトコルのオプションには[AES 128]と[DES]があります。デフォルト値は[AES 128]です。[プライバシー プロトコル]は、[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

- プライバシーパスワード

  プライバシー プロトコルの使用時のパスワードを指定します。[プライバシー パスワード]は、[SNMP バージョン 3、認証と暗号化を使用]とともに使用できます。

SNMPオブジェクトとトラップの詳細については、"Active IQ Unified Manager MIB"をNetApp Support Siteからダウンロードできます。

Active IQ Unified Manager のイベント管理インベントリページについて

[イベント管理]インベントリ ページでは、現在のイベントとそのプロパティのリストを確認できます。イベントについて、確認、解決、割り当てなどのタスクを実行することができます。特定のイベントに対するアラートを追加することもできます。

このページの情報は5分ごとに自動的に更新され、最新のイベントが表示されます。

フィルタ コンポーネント

イベント リストに表示される情報をカスタマイズできます。次のコンポーネントを使用して、イベントのリストを絞り込むことができます。

- メニューを表示して、事前定義済みのフィルター選択肢のリストから選択します。

  たとえば、すべてのアクティブなイベント（新規および確認済みのイベント）、アクティブなパフォーマンス イベント、自分（ログインしているユーザ）に割り当てられているイベント、メンテナンス時間中に生成されたすべてのイベントなどの項目があります。

- 検索ペインに、イベントの一覧を絞り込むための語句（全部または一部）を入力します。
- [フィルタ]ボタン。[フィルタ]ペインを起動し、使用可能なすべてのフィールドとフィールド属性から条件を選択してイベントのリストを絞り込むことができます。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 担当者

  イベントを割り当てるユーザを選択できます。イベントをユーザに割り当てると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールドに、そのユーザの名前とイベントを割り当てた時刻が追加されます。

  - 自分

    現在ログインしているユーザにイベントを割り当てます。

  - 別のユーザ

    [所有者の割り当て]ダイアログ ボックスが表示され、イベントを他のユーザに割り当てたり再割り当てしたりできます。所有権のフィールドを空白にすると、イベントの割り当てを解除できます。

- 確認

  選択したイベントを確認します。

  イベントを確認すると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールドに、自分のユーザ名とイベントを確認した時刻が追加されます。確認したイベントについては、自分で対処する必要があります。

  情報イベントに確認応答することはできません。

- 解決済みとしてマークする

  イベントの状態を解決済みに変更できます。

  イベントを解決すると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールドに、自分のユーザ名とイベントを解決した時刻が追加されます。イベントに対処したら、そのイベントを解決済みとしてマークする必要があります。

- アラートを追加

[アラートの追加]ダイアログ ボックスが表示され、選択したイベントにアラートを追加できます。

- レポート

  現在のイベント ビューの詳細をカンマ区切り値（.csv）ファイルまたはPDFドキュメントとしてエクスポートできます。

- 列セレクターの表示/非表示

  ページに表示する列とその表示順序を選択できます。

[イベント]リスト

すべてのイベントの詳細がトリガーされた時刻の順に表示されます。

デフォルトでは、「すべてのアクティブなイベント」ビューが表示され、過去7日間に発生した、インシデントまたはリスクの影響レベルを持つ新規イベントと確認済みイベントが表示されます。

- トリガー時間

  イベントが生成された時刻。

- 重大度

  イベントの重大度：重大 ()、エラー ()、警告 ()、および情報 ()。

- 状態

  イベントの状態：新規、承認済み、解決済み、または廃止済み。

- 影響度

  イベントの影響レベル：インシデント、リスク、イベント、またはアップグレード。

- 影響範囲

  イベントの影響範囲：可用性、容量、パフォーマンス、保護、構成、またはセキュリティ。

- 名前

  イベント名。名前を選択して、そのイベントの[イベントの詳細]ページを表示できます。

- ソース

  イベントが発生したオブジェクトの名前。名前を選択して、そのオブジェクトの健全性またはパフォーマンスの詳細ページを表示できます。

  共有QoSポリシーの違反の場合、このフィールドには、IOPSまたはMBpsが高い上位のワークロード オブジェクトのみが表示されます。このポリシーを使用する他のワークロードは[イベントの詳細]ページに表示されます。

- ソースタイプ

イベントが関連付けられているオブジェクトのタイプ（Storage VM、ボリューム、qtreeなど）。

- 担当者

  イベントが割り当てられているユーザの名前。

- イベント発生源

  「Active IQポータル」のイベントか、「Active IQ Unified Manager」から直接のイベントか。

- 注釈名

  ストレージ オブジェクトに割り当てられたアノテーションの名前。

- 注記

  イベントに追加されているメモの数。

- 未払い日数

  イベントが最初に生成されてからの経過日数。

- 割り当てられた時間

  イベントがユーザに割り当てられてからの経過時間。1週間を過ぎたイベントには、割り当て時のタイムスタンプが表示されます。

- 承認者

  イベントを確認したユーザの名前。イベントが確認されていない場合は空白になります。

- 確認時刻

  イベントが確認されてからの経過時間。1週間を過ぎたイベントには、確認時のタイムスタンプが表示されます。

- 解決済み

  イベントを解決したユーザの名前。イベントが解決されていない場合は空白になります。

- 解決時刻

  イベントが解決されてからの経過時間。1週間を過ぎたイベントには、解決時のタイムスタンプが表示されます。

- 廃止時刻

  イベントの状態が「廃止」になった時刻。

[イベントの詳細**]**ページ

[イベントの詳細]ページでは、選択したイベントの重大度、影響レベル、影響領域、イベント ソースなどの詳細を確認できます。問題を解決するための考えられる対処方法に関する追加情報も確認できます。

- イベント名

  イベントの名前と最終確認時刻。

  パフォーマンス イベント以外のイベントの場合は、状態が「新規」または「確認済み」のときは最終確認時刻が不明なため、この情報は表示されません。

- イベント概要

  イベントの簡単な説明。

  イベントの説明には、イベントがトリガーされた理由が含まれる場合があります。

- 競合するコンポーネント

  動的なパフォーマンス イベントについて、クラスタの論理コンポーネントと物理コンポーネントを表すアイコンが表示されます。コンポーネントが競合状態にある場合は、アイコンが赤い丸で強調表示されます。

  ここに表示されているコンポーネントの説明については、「クラスタコンポーネントとその競合が発生する理由」を参照してください。

[イベント情報]、[システム診断]、[推奨される操作]の各セクションについては、他のトピックで説明しています。

コマンド ボタン

各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- メモアイコン

  イベントに関するメモを追加または更新したり、他のユーザが残したすべてのメモを確認したりできます。

アクションメニュー

- 自分に割り当て

  イベントを自分に割り当てます。

- 他者に割り当てる

  [所有者の割り当て]ダイアログ ボックスが開き、イベントを他のユーザに割り当てたり再割り当てしたりできます。

  イベントをユーザに割り当てると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールドに、そのユーザの名前とイベントが割り当てられた時刻が追加されます。

所有権のフィールドを空白にすると、イベントの割り当てを解除できます。

- 確認

  選択したイベントに確認応答し、アラート通知が繰り返し送信されないようにします。

  イベントに確認応答すると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールド（[確認者]）に、自分のユーザ名とイベントに応答した時刻が追加されます。確認応答したイベントについては、自分で対処する必要があります。

- 解決済みとしてマークする

  イベントの状態を「解決済み」に変更できます。

  イベントを解決すると、イベント リストの選択したイベントの該当するフィールド（[解決者]）に、自分のユーザ名とイベントを解決した時刻が追加されます。イベントに対処したら、そのイベントを解決済みとしてマークする必要があります。

- アラートを追加

  [アラートの追加]ダイアログ ボックスが表示され、選択したイベントにアラートを追加できます。

Active IQ Unified Manager のイベント情報セクションについて

[イベントの詳細]ページの[イベント情報]セクションでは、選択したイベントの重大度、影響レベル、影響領域、イベント ソースなどの詳細を確認できます。

イベント タイプに関係のないフィールドは表示されません。イベントに関する次の詳細を確認できます。

- イベント発生時刻

  イベントが生成された時刻。

- 状態

  イベントの状態：新規、承認済み、解決済み、または廃止済み。

- 廃止原因

  イベントが廃止になった理由（問題が修正されたなど）。

- イベント期間

  アクティブなイベント（新規および確認済みのイベント）の場合は、イベントが検出されてから最後に分析されたときまでの時間です。廃止状態のイベントの場合は、イベントが検出されてから解決されるまでの時間です。

  このフィールドは、すべてのパフォーマンス イベントに対して表示されます。その他のタイプのイベントについては、解決されるか廃止になったあとにのみ表示されます。

- 最終確認日時

  イベントがアクティブだった最終日時。

パフォーマンスイベントの場合、この値はイベントトリガー時刻よりも新しい値になる可能性があります。これは、イベントがアクティブである限り、パフォーマンスデータが新たに収集されるたびにこのフィールドが更新されるためです。その他の種類のイベントの場合、新規または承認済み状態であれば、このコンテンツは更新されず、したがってフィールドは非表示になります。

- 重大度

  イベントの重大度：重大 ()、エラー ()、警告 ()、および情報 ()。

- 影響度

  イベントの影響レベル：インシデント、リスク、イベント、またはアップグレード。

- 影響範囲

  イベントの影響範囲：可用性、容量、パフォーマンス、保護、構成、またはセキュリティ。

- ソース

  イベントが発生したオブジェクトの名前。

  共有QoSポリシーのイベントの詳細を表示している場合、このフィールドには、IOPSまたはMBpsが高い上位のワークロード オブジェクトが最大3つ表示されます。

  ソース名のリンクをクリックすると、そのオブジェクトの健全性またはパフォーマンスの詳細ページを表示できます。

- 出典注釈

  イベントが関連付けられているオブジェクトのアノテーションの名前と値が表示されます。

  このフィールドは、クラスタ、SVM、およびボリュームの健全性イベントに対してのみ表示されます。

- ソースグループ

  該当するオブジェクトがメンバーとして属しているすべてのグループの名前が表示されます。

  このフィールドは、クラスタ、SVM、およびボリュームの健全性イベントに対してのみ表示されます。

- ソースタイプ

  イベントが関連付けられているオブジェクトの種類（例：SVM、Volume、Qtree）。

- クラスター上

  イベントが発生したクラスタの名前。

  クラスタ名のリンクをクリックすると、そのクラスタの健全性またはパフォーマンスの詳細ページを表示できます。

- 影響を受けるオブジェクトの数

  イベントの影響を受けるオブジェクトの数。

オブジェクトのリンクをクリックすると、インベントリ ページが表示され、現在このイベントの影響を受けているオブジェクトを確認できます。

このフィールドは、パフォーマンス イベントに対してのみ表示されます。

- 影響を受けるボリューム

  このイベントの影響を受けるボリュームの数。

  このフィールドは、ノードまたはアグリゲートのパフォーマンス イベントに対してのみ表示されます。

- トリガーされたポリシー

  イベントを発行したしきい値ポリシーの名前。

  ポリシー名にカーソルを合わせると、しきい値ポリシーの詳細を確認できます。アダプティブQoSポリシーの場合は、定義されているポリシー、ブロック サイズ、および割り当てのタイプ（割り当てスペースまたは使用スペース）も表示されます。

  このフィールドは、パフォーマンス イベントに対してのみ表示されます。

- ルール**ID**

  Active IQ プラットフォームイベントの場合、これはイベントを生成するためにトリガーされたルールの番号です。

- 承認者

  イベントに確認応答したユーザの名前と応答時刻。

- 解決者

  イベントを解決したユーザの名前と解決時刻。

- 担当者

  イベントへの対応が割り当てられているユーザの名前。

- アラート設定

  アラートに関する次の情報が表示されます。

  - 選択したイベントに関連付けられたアラートがない場合は、「アラートを追加」リンクが表示されます。

    リンクをクリックすると、[アラートの追加]ダイアログ ボックスが開きます。

  - 選択したイベントにアラートが1つ関連付けられている場合は、そのアラートの名前が表示されます。

    リンクをクリックすると、[アラートの編集]ダイアログ ボックスが開きます。

  - 選択したイベントにアラートが複数関連付けられている場合は、アラートの数が表示されます。

リンクをクリックすると、[アラート セットアップ]ページが開き、それらのアラートに関する詳細が表示されます。

無効になっているアラートは表示されません。

- 最終通知送信済み

  最新のアラート通知が送信された日時。

- 送信者

  アラート通知の送信に使用されたメカニズム（EメールまたはSNMPトラップ）。

- 前回のスクリプト実行

  アラートが生成されたときに実行されたスクリプトの名前。

Active IQ Unified Manager の推奨アクションについて

[イベントの詳細]ページの[推奨される操作]セクションには、イベントの考えられる理由とイベントを解決するための推奨される対処方法が表示されます。推奨される操作は、イベントのタイプまたは超過したしきい値のタイプに基づいてカスタマイズされます。

この領域は、一部のタイプのイベントに対してのみ表示されます。

場合によっては、ページ上に「ヘルプ」リンクが用意されており、推奨される多くの操作に関する追加情報（特定の操作を実行するための手順など）を参照できます。一部の対処方法では、Unified Manager、ONTAP System Manager、OnCommand Workflow Automation、ONTAP CLIコマンド、またはこれらのツールの組み合わせを使用する場合があります。

これらの推奨される対処方法は、このイベントを解決するための一般的なガイダンスであることに注意してください。このイベントを解決するための対処方法は、それぞれの環境に応じて決める必要があります。

オブジェクトとイベントをより詳細に分析する場合は、*「ワークロードの分析」*ボタンをクリックしてワークロード分析ページを表示してください。

イベントによっては、Unified Managerの詳細な診断の結果、単一の解決策が提示されることがあります。解決策が利用可能な場合は、**Fix It** ボタンとともに表示されます。このボタンをクリックすると、Unified Manager がイベントの原因となっている問題を修正します。

Active IQ プラットフォームイベントの場合、このセクションには、問題とその解決策について説明した NetApp ナレッジベース記事へのリンクが含まれている場合があります（利用可能な場合）。外部ネットワーク アクセスのないサイトでは、ナレッジベース記事の PDF ファイルがローカルで開きます。この PDF ファイルは、Unified Manager インスタンスに手動でダウンロードするルールファイルの一部です。

Active IQ Unified Manager のシステム診断について

[イベントの詳細]ページの[システム診断]セクションには、イベントの原因となった可能性がある問題の診断に役立つ情報が表示されます。

この領域は、一部のイベントに対してのみ表示されます。

一部のパフォーマンス イベントについては、トリガーされたイベントに関連するグラフが表示されます。通常は、過去10日間のIOPSまたはMBpsのグラフとレイテンシのグラフです。これらのグラフを確認することで、イベントがアクティブなときにレイテンシに影響している、または影響を受けているストレージ コンポーネントを特定することができます。

動的なパフォーマンス イベントについては、次のグラフが表示されます。

- ワークロード レイテンシ - 競合状態のコンポーネントのVictim、Bully、Sharkの上位のワークロードについて、レイテンシの履歴が表示されます。
- ワークロード アクティビティ - 競合状態のクラスタ コンポーネントのワークロードの使用量に関する詳細が表示されます。
- リソース アクティビティ - 競合状態のクラスタ コンポーネントの過去のパフォーマンス統計が表示されます。

一部のクラスタ コンポーネントが競合状態にある場合は、これ以外のグラフが表示されます。

その他のイベントについては、ストレージ オブジェクトに対して実行されている分析タイプの簡単な説明が表示されます。複数のパフォーマンス カウンタを分析するシステム定義のパフォーマンス ポリシーの場合は、複数の行（分析されたコンポーネントごとに1行）が表示されることがあります。この場合、診断の横に、その診断で問題が見つかったかどうかを示す緑または赤のアイコンが表示されます。

Active IQ Unified Manager のイベント設定ページについて

[イベント セットアップ]ページには、無効なイベントのリストが表示されます。また、関連付けられているオブジェクト タイプやイベントの重大度などの情報が提供されます。イベントのグローバルな無効化 / 有効化などのタスクを実行することもできます。

このページにアクセスできるのは、アプリケーション管理者ロールまたはストレージ管理者ロールが割り当てられている場合のみです。

コマンド ボタン

選択したイベントについて、各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 無効にする

  [イベントの無効化]ダイアログ ボックスを起動します。イベントを無効にする場合に使用できます。

- 有効にする

  以前に無効にするように選択したイベントを有効にします。

- アップロードルール

  外部ネットワーク アクセスのないサイトが Active IQ ルールファイルを Unified Manager に手動でアップロードできるようにする「アップロードルール」ダイアログボックスを起動します。ルールはクラスターの AutoSupport メッセージに対して実行され、Active IQ プラットフォームで定義されたシステム構成、ケーブル配線、ベストプラクティス、および可用性に関するイベントを生成します。

- **EMS**イベントを購読する

EMSイベントの購読ダイアログボックスを起動します。このダイアログボックスを使用すると、監視対象のクラスタから特定のイベント管理システム（EMS）イベントを受信するように購読できます。EMSは、クラスタ上で発生するイベントに関する情報を収集します。登録済みのEMSイベントに関する通知を受信すると、適切な重要度でUnified Managerイベントが生成されます。

リスト ビュー

リスト ビューには、無効なイベントに関する情報が表形式で表示されます。列のフィルタを使用して、表示するデータをカスタマイズできます。

- イベント

  無効なイベントの名前が表示されます。

- 重大度

  イベントの重大度が表示されます。重大、エラー、警告、情報のいずれかです。

- ソースタイプ

  生成されるイベントのソース タイプが表示されます。

Active IQ Unified Manager でイベントダイアログボックスを無効にする

[イベントの無効化]ダイアログ ボックスには、イベントを無効にできるイベント タイプのリストが表示されます。イベント タイプの特定の重大度のイベントを無効にするか、一連のイベントを指定して無効にできます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

[イベント プロパティ**]**領域

[イベント プロパティ]領域で、イベントについて次のプロパティを指定します。

- イベントの深刻度

  重大度タイプに基づいてイベントを選択できます。タイプは、「重大」、「エラー」、「警告」、または「情報」のいずれかになります。

- イベント名に以下が含まれる

  名前に指定した文字を含むイベントをフィルタできます。

- イベントのマッチング

  指定した重大度タイプおよびテキスト文字列に一致するイベントのリストが表示されます。

- イベントを無効にする

  無効にするように選択したイベントのリストが表示されます。

  イベント名に加えてイベントの重大度も表示されます。

コマンド ボタン

選択したイベントについて、各コマンド ボタンを使用して次のタスクを実行できます。

- 保存して閉じる

  イベント タイプを保存してダイアログ ボックスを閉じます。

- キャンセル

  変更内容を破棄してダイアログ ボックスを閉じます。

アラートを管理する

Active IQ Unified Manager のアラートについて

イベントは継続的に発生しますが、Unified Manager は、イベントが指定されたフィルタ条件を満たした場合にのみアラートを生成します。アラートを生成するイベントを選択できます。たとえば、スペースのしきい値を超えた場合や、オブジェクトがオフラインになった場合などです。アラートが発生したときに実行されるスクリプトをアラートに関連付けることもできます。

フィルタ条件には、オブジェクト クラス、名前、またはイベントの重大度が含まれます。

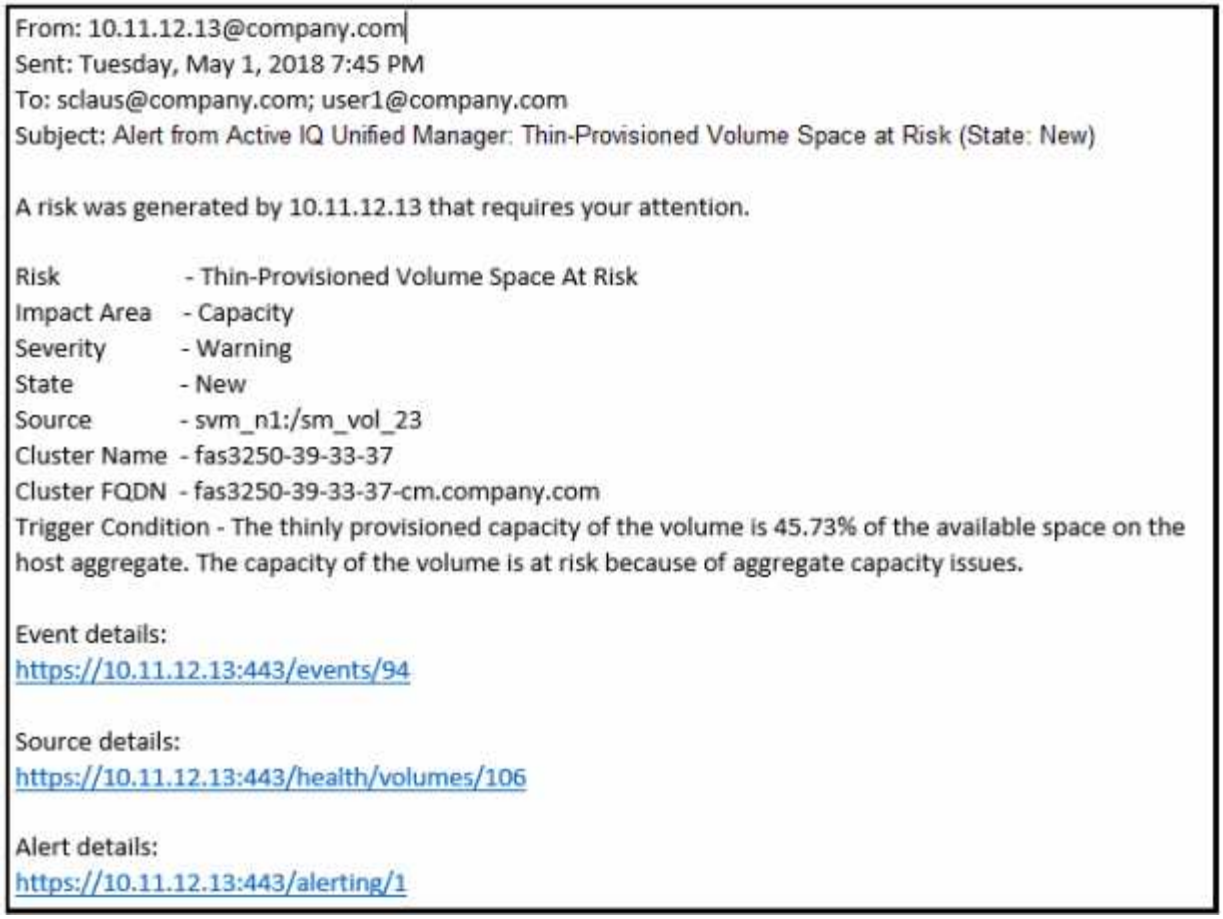
Active IQ Unified Manager アラートメールに含まれる情報

Unified ManagerのアラートEメールには、イベントのタイプ、イベントの重大度、イベントの原因となった違反したポリシーまたはしきい値の名前、およびイベントの説明が記載されています。また、UIでイベントの詳細ページを確認できるように、各イベントのハイパーリンクもEメール メッセージ内に記載されています。

アラートEメールは、アラートを受信するように登録しているすべてのユーザに送信されます。

パフォーマンス カウンタや容量の値が収集期間内に大きく変わった場合、同じしきい値ポリシーに対して重大イベントと警告イベントの両方が同時にトリガーされることがあります。この場合、警告イベントのEメールと重大イベントのEメールを1通ずつ受信する可能性があります。これは、Unified Managerでは、警告と重大のしきい値違反に対するアラートを受信するように個別に登録できるためです。

アラートEメールの例を次に示します。


From: 10.11.12.13@company.com
Sent: Tuesday, May 1, 2018 7:45 PM
To: sclaus@company.com; user1@company.com
Subject: Alert from Active IQ Unified Manager: Thin-Provisioned Volume Space at Risk (State: New)

A risk was generated by 10.11.12.13 that requires your attention.

Risk - Thin-Provisioned Volume Space At Risk
Impact Area - Capacity
Severity - Warning
State - New
Source - svm_n1:/sm_vol_23
Cluster Name - fas3250-39-33-37
Cluster FQDN - fas3250-39-33-37-cm.company.com
Trigger Condition - The thinly provisioned capacity of the volume is 45.73% of the available space on the host aggregate. The capacity of the volume is at risk because of aggregate capacity issues.

Event details:
https://10.11.12.13:443/events/94

Source details:
https://10.11.12.13:443/health/volumes/106

Alert details:
https://10.11.12.13:443/alerting/1

アラートの追加

Active IQ Unified Manager でアラートを追加する

特定のイベントが生成されたときに通知するようにアラートを設定できます。アラートは、単一のリソース、リソースのグループ、または特定の重大度タイプのイベントについて設定することができます。通知を受け取る頻度を指定したり、アラートにスクリプトを関連付けたりできます。

開始する前に

- イベントが生成されたときにActive IQ Unified Managerサーバからユーザに通知を送信できるように、通知に使用するユーザのEメール アドレス、SMTPサーバ、SNMPトラップ ホストなどを設定しておく必要があります。
- アラートをトリガーするリソースとイベント、および通知するユーザのユーザ名またはEメール アドレスを確認しておく必要があります。
- イベントに基づいてスクリプトを実行する場合は、[スクリプト]ページを使用してUnified Managerにスクリプトを追加しておく必要があります。
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

アラートは、ここで説明する手順に従って[アラート セットアップ]ページで作成できるほか、イベントを受け取ったあとに[イベントの詳細]ページで直接作成することもできます。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. *アラート設定*ページで、*追加*をクリックします。
3. *アラートの追加*ダイアログボックスで、*名前*をクリックし、アラートの名前と説明を入力します。
4. *Resources*をクリックし、アラートに含めるまたはアラートから除外するリソースを選択します。

   *名前に含む*フィールドにテキスト文字列を指定してフィルタを設定すると、リソースのグループを選択できます。指定したテキスト文字列に基づいて、使用可能なリソースのリストには、フィルタルールに一致するリソースのみが表示されます。指定するテキスト文字列では大文字と小文字が区別されます。

   あるリソースが対象に含めるルールと除外するルールの両方に該当する場合は、除外するルールが優先され、除外されたリソースに関連するイベントについてはアラートが生成されません。

5. * Events *をクリックし、アラートをトリガーするイベント名またはイベント重大度タイプに基づいてイベントを選択します。

   複数のイベントを選択するには、Ctrlキーを押しながら選択します。

6. * アクション * をクリックし、通知するユーザーを選択し、通知頻度を選択し、トラップ受信者に SNMP トラップを送信するかどうかを選択し、アラートが生成されたときに実行するスクリプトを割り当てます。

   該当するユーザのEメール アドレスを変更し、その後アラートを編集するために開くと、[名前]フィールドは空欄になります。これは、Eメールが変更されたことでユーザとのマッピングが無効になったためです。また、選択したユーザのEメール アドレスを[ユーザ]ページで変更した場合、変更後のEメール アドレスは反映されません。

   SNMPトラップを使用してユーザに通知することもできます。

7. *保存*をクリックします。

アラートの追加例

ここでは、次の要件を満たすアラートを作成する例を示します。

- アラート名：HealthTest
- リソース：名前に「abc」を含むすべてのボリュームを対象に含め、名前に「xyz」を含むすべてのボリュームを対象から除外する
- イベント：健全性に関するすべての重大なイベントを対象に含める
- 処理：「Test」スクリプトを割り当て、「sample@domain.com」のユーザに15分ごとに通知する

[Add Alert]ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。

1. 名前*をクリックし、*アラート名*フィールドに`HealthTest`*を入力します。
2. *Resources*をクリックし、Includeタブでドロップダウンリストから*Volumes*を選択します。
   a. 名前に含む フィールドに **`abc`** を入力して、名前に「abc」を含むボリュームを表示します。
   b. [使用可能なリソース] 領域から **<<All Volumes whose name contains 'abc'>>** を選択し、[選択したリソース] 領域に移動します。

c. 「除外」をクリックし、「名前に含む」フィールドに「**xyz**」と入力して、「追加」をクリックします。

3. *イベント*をクリックし、イベントの重大度フィールドから*重大*を選択します。
4. [一致するイベント] 領域から すべての重要なイベント を選択し、[選択したイベント] 領域に移動します。
5. **Actions** をクリックし、「Alert these users」フィールドに **sample@domain.com** を入力します。
6. ユーザーに 15 分ごとに通知するには、*15 分ごとに通知*を選択します。

   指定した期間、受信者に繰り返し通知を送信するようにアラートを設定できます。アラートに対してイベント通知をアクティブにする時間を決める必要があります。

7. [実行するスクリプトの選択] メニューで、**Test** スクリプトを選択します。
8. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でアラートを追加するためのガイドライン

アラートは、リソース（クラスタ、ノード、アグリゲート、ボリュームなど）とイベントの重大度に基づいて追加することができます。ベストプラクティスとして、重要なオブジェクトが属するクラスタを追加したあと、それらのすべてのオブジェクトについてのアラートを追加することを推奨します。

アラートを作成する際は、システムを効率的に管理できるように次のガイドラインと考慮事項を参考にしてください。

- アラートの説明

  アラートを効率的に追跡できるように、わかりやすい説明を入力します。

- リソース

  アラートが必要な物理リソースまたは論理リソースを決める必要があります。リソースは必要に応じて追加したり除外したりできます。たとえば、アラートを設定してアグリゲートを詳細に監視する場合は、リソースのリストから必要なアグリゲートを選択する必要があります。

  リソースのカテゴリ（例：**<<All User or Group Quotas>>**）を選択すると、そのカテゴリのすべてのオブジェクトに関するアラートが届きます。

  > リソースとしてクラスタを選択しても、そのクラスタ内のストレージ オブジェクトは自動的には選択されません。たとえば、すべてのクラスタのすべての重大イベントを対象とするアラートを作成した場合、受信するアラートの対象はクラスタの重大イベントのみです。ノードやアグリゲートなどの重大イベントに対するアラートは受信しません。

- イベントの重大度

  イベントの重大度（重大、エラー、警告）ごとにアラートをトリガーするかどうかを決めて、アラートをトリガーする重大度を指定する必要があります。

- 選択したイベント

  生成されるイベントのタイプに基づいてアラートを追加する場合は、アラートが必要なイベントを決める

必要があります。

イベントの重大度を選択し、かつ個々のイベントを選択しなかった場合（[選択したイベント]列を空白にした場合）は、カテゴリのすべてのイベントに関するアラートが表示されます。

- 操作

  通知を受信するユーザのユーザ名とEメール アドレスを指定する必要があります。通知のモードとしてSNMPトラップを指定することもできます。アラートが生成されたときに実行されるように、アラートにスクリプトを関連付けることができます。

- 通知の頻度

  指定した期間、受信者に繰り返し通知を送信するようにアラートを設定できます。アラートに対してイベント通知をアクティブにする時間を決める必要があります。イベントが確認されるまでイベント通知を再送する場合は、通知を再送する頻度を決める必要があります。

- スクリプトを実行

  アラートにスクリプトを関連付けることができます。スクリプトはアラートが生成されると実行されます。

Active IQ Unified Manager でパフォーマンス イベントのアラートを追加する

パフォーマンス イベントのアラートは、Unified Managerで受信する他のイベントと同様に、イベントごとに個別に設定することができます。また、すべてのパフォーマンス イベントを同じように扱い、同じユーザにEメールを送信する場合は、重大または警告のパフォーマンス イベントがトリガーされたときに通知する共通のアラートを作成することもできます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

ここでは、レイテンシ、IOPS、およびMBpsのすべての重大イベントに対するアラートを作成する例を示します。同じ方法ですべてのパフォーマンス カウンタからイベントを選択して、すべての警告イベントに対するアラートを作成することもできます。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. *アラート設定*ページで、*追加*をクリックします。
3. *アラートの追加*ダイアログボックスで、*名前*をクリックし、アラートの名前と説明を入力します。
4. 「リソース」ページでは、リソースを選択しないでください。

   リソースを選択していないため、クラスタ、アグリゲート、ボリュームなど、何に対するイベントを受信したかに関係なく、すべてのリソースにアラートが適用されるようになります。

5. 「イベント」をクリックし、以下の操作を実行してください：

   a. イベントの重大度リストで、「重大」を選択します。

b. 「イベント名に含む」フィールドに*latency*を入力し、矢印をクリックして一致するすべてのイベントを選択します。

c. 「イベント名に含む」フィールドに*iops*を入力し、矢印をクリックして一致するすべてのイベントを選択します。

d. 「イベント名に含む」フィールドに、**mbps** を入力し、矢印をクリックして、一致するすべてのイベントを選択します。

6. **Actions** をクリックし、**Alert these users** フィールドで、アラートメールを受信するユーザーの名前を選択します。
7. SNMPトラップの発行やスクリプトの実行など、このページの他のオプションを設定します。
8. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でのテストアラート

アラートをテストして、アラートが正しく設定されていることを確認できます。イベントがトリガーされるとアラートが生成され、設定した受信者にアラートEメールが送信されます。テスト アラートを使用して、通知が送信されるかどうか、およびスクリプトが実行されるかどうかを確認できます。

開始する前に

- 通知の設定（受信者のEメール アドレス、SMTPサーバ、SNMPトラップなど）を実行しておく必要があります。

  Unified Managerサーバはこれらの設定を使用して、イベントが生成されたときにユーザに通知を送信します。

- スクリプトを割り当てて、アラートが生成されたときに実行するようにスクリプトを設定しておく必要があります。
- アプリケーション管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. 「Alert Setup」ページで、テストするアラートを選択し、「Test」をクリックします。

   アラートの作成時に指定したEメール アドレスにテスト アラートEメールが送信されます。

Active IQ Unified Manager で解決済みおよび廃止されたイベントのアラートを無効にする

アラートを送信するように設定したすべてのイベントについて、それらのイベントが「新規」、「解決済み」、「廃止済み」というすべての状態を遷移したときにアラートメッセージが送信されます。イベントが解決済みまたは廃止済み状態に移行した際にアラートを受信したくない場合は、グローバル設定を構成してこれらのアラートを抑制することができます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

デフォルトでは、イベントが解決済み / 廃止状態に移行する際にアラートは送信されません。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. 「Alert Setup」ページで、「Alerts for Resolved and Obsolete events」の横にあるスライダーコントロールを使用して、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
イベントが解決済みまたは廃止状態に移行したときのアラートの送信を停止する	スライダを左に移動する
イベントが解決済みまたは廃止状態に移行したときのアラートの送信を開始する	スライダを右に移動する

Active IQ Unified Manager でディザスタリカバリ先ボリュームをアラート生成対象から除外する

ボリュームのアラートを設定するときは、[アラート]ダイアログ ボックスでボリュームまたはボリューム グループを識別する文字列を指定できます。ただし、SVMのディザスタ リカバリを設定している場合は、ソース ボリュームとデスティネーション ボリュームの名前が同じであるため、両方のボリュームについてアラートを受け取ることになります。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

災害復旧先のボリュームに関するアラートを無効にするには、復旧先のSVMと同じ名前を持つボリュームを除外します。これは、ボリュームイベントの識別子に、SVM名とボリューム名の両方が「<svm_name>:/<volume_name>」の形式で含まれているためです。

ここでは、プライマリSVM「vs1」にあるボリューム「vol1」に対するアラートを作成し、SVM「vs1-dr」にある同じ名前のボリュームはアラート生成の対象から除外する例を示します。

[Add Alert]ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。

手順

1. *名前*をクリックし、アラートの名前と説明を入力します。
2. 「リソース」をクリックし、「含める」タブを選択します。
   a. ドロップダウンリストから*ボリューム*を選択し、名前に含む*フィールドに`vol1`*と入力して、名前に「vol1」を含むボリュームを表示します。
   b. **<<All Volumes whose name contains 'vol1'>>** を 利用可能なリソース エリアから選択し、選択されたリソース エリアに移動します。
3. 「除外」タブを選択し、「ボリューム」を選択して、「名前に含む」フィールドに*`vs1-dr`*と入力し、「追加」をクリックします。

   これにより、SVM「vs1-dr」にあるボリューム「vol1」がアラートの生成対象から除外されます。

4. **Events** をクリックし、ボリュームに適用するイベントを選択します。
5. **Actions** をクリックし、**Alert these users** フィールドで、アラートメールを受信するユーザーの名前を選択します。
6. SNMPトラップの発行やスクリプトの実行に関するその他のオプションをこのページで設定し、*保存*をクリックしてください。

Active IQ Unified Manager でアラートを表示する

さまざまなイベントに対して作成されるアラートのリストを[アラート セットアップ]ページから表示できます。また、アラートのプロパティを表示することもできます。このプロパティには、アラートの説明、通知方式と通知頻度、アラートをトリガーするイベント、アラートのEメール受信者、影響を受けるリソース（例：クラスタ、アグリゲート、ボリューム）などがあります。

開始する前に

オペレータ、アプリケーション管理者、またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。

   [アラート セットアップ]ページにアラートのリストが表示されます。

Active IQ Unified Manager でアラートを編集する

関連付けられているリソース、イベント、受信者、通知オプション、通知頻度、関連付けられているスクリプトなど、アラートのプロパティを編集することができます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. 「Alert Setup」ページで、編集するアラートを選択し、「Edit」をクリックします。
3. 「アラートの編集」ダイアログボックスで、必要に応じて名前、リソース、イベント、アクションの各セクションを編集します。

   アラートに関連付けられているスクリプトについては、変更と削除が可能です。

4. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でアラートを削除する

不要になったアラートを削除できます。たとえば、特定のリソースがUnified Managerの監視対象でなくなった場合、そのリソースについて作成されたアラートを削除できます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. 「Alert Setup」ページで、削除するアラートを選択し、「Delete」をクリックします。
3. 削除リクエストを確定するには、「はい」をクリックしてください。

アラートのウィンドウとダイアログ ボックスの説明

Active IQ Unified Manager のアラート設定ページについて

[アラート セットアップ]ページには、アラートのリストおよびアラート名、ステータス、通知方式、通知頻度に関する情報が表示されます。また、このページでアラートを追加、編集、削除、有効化、無効化することもできます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

コマンド ボタン

- 追加

  [アラートの追加]ダイアログ ボックスが表示され、新しいアラートを追加できます。

- 編集

  [アラートの編集]ダイアログ ボックスが表示され、選択したアラートを編集できます。

- 削除

  選択したアラートを削除します。

- 有効にする

  選択したアラートを有効にして通知を送信します。

- 無効にする

  通知の送信を一時的に停止する場合に、選択したアラートを無効にします。

- テスト

  選択したアラートをテストして、アラートの追加後または編集後にその設定を検証します。

- 解決済みおよび廃止されたイベントに関するアラート

  イベントが解決済みまたは廃止状態に移行した場合のアラートの送信を有効または無効にすることができます。これにより、ユーザは不要な通知を受信せずに済みます。

リスト ビュー

リスト ビューには、作成されたアラートに関する情報が表形式で表示されます。列のフィルタを使用して、表示するデータをカスタマイズできます。アラートを選択して、そのアラートに関する詳しい情報を詳細領域に表示することもできます。

- ステータス

  アラートが有効（）か無効（）かを指定します。

- アラート

  アラートの名前が表示されます。

- 概要

  アラートの説明が表示されます。

- 通知方法

  アラート用に選択した通知方式が表示されます。EメールまたはSNMPトラップを使用してユーザに通知できます。

- 通知頻度

  イベントが確認または解決されるか、廃止状態に設定されるまでの間、管理サーバが通知を送信する頻度（分）を示します。

詳細領域

詳細領域には、選択したアラートに関する詳細情報が表示されます。

- アラート名

  アラートの名前が表示されます。

- アラートの概要

  アラートの説明が表示されます。

- イベント

  アラートをトリガーするイベントが表示されます。

- リソース

  アラートをトリガーするリソースが表示されます。

- 含まれるもの

  アラートをトリガーするリソースのグループが表示されます。

- 除外

アラートをトリガーしないリソースのグループが表示されます。

- 通知方法

  アラートの通知方式が表示されます。

- 通知頻度

  イベントが確認または解決されるか、廃止状態に設定されるまでの間、管理サーバがアラート通知を送信する頻度が表示されます。

- スクリプト名

  選択したアラートに関連付けられているスクリプトの名前が表示されます。このスクリプトはアラートが生成された際に実行されます。

- メール受信者

  アラート通知を受信するユーザのEメール アドレスが表示されます。

Active IQ Unified Manager の「アラートの追加」ダイアログボックスについて

アラートを作成すると、特定のイベントが生成されたときに通知されるため、問題に迅速に対処し、環境に対する影響を最小限に抑えることができます。アラートは、単一のリソース、一連のリソース、および特定の重大度タイプのイベントについて作成することができます。アラートの通知方式と通知頻度を指定することもできます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

Name

この領域では、アラートの名前と説明を指定できます。

- アラート名

  アラート名を指定できます。

- アラートの概要

  アラートの説明を指定できます。

リソース

この領域では、アラートをトリガーしたい個々のリソースを選択したり、動的なルールに基づいてリソースをグループ化したりできます。_動的ルール_とは、指定したテキスト文字列に基づいてフィルタリングされたリソースのセットのことです。ドロップダウンリストからリソースの種類を選択してリソースを検索するか、正確なリソース名を指定して特定のリソースを表示することもできます。

いずれかのストレージ オブジェクトの詳細ページからアラートを作成する場合は、ストレージ オブジェクトが自動的にアラートに含まれます。

- 含む

アラートをトリガーしたいリソースを含めることができます。テキスト文字列を指定して、その文字列に一致するリソースをグループ化し、そのグループをアラートに含めるように選択できます。たとえば、「abc」という文字列が名前に含まれるすべてのボリュームをグループ化できます。

- 除外

  アラートを発生させたくないリソースを除外することができます。たとえば、「xyz」と指定して、この文字列が名前に含まれるすべてのボリュームを除外することができます。

  「除外」タブは、特定のリソースタイプのすべてのリソースを選択した場合にのみ表示されます：たとえば、<<All Volumes>>または<<All Volumes whose name contains 'xyz'>>。

  あるリソースが対象に含めるルールと除外するルールの両方に該当する場合は、除外するルールが優先され、イベントについてはアラートが生成されません。

イベント

この領域では、アラートを作成するイベントを選択できます。特定の重大度に基づくイベントまたは一連のイベントに対してアラートを作成できます。

複数のイベントを選択するには、Ctrlキーを押しながら選択します。

- イベントの深刻度

  重大度タイプに基づいてイベントを選択できます。タイプは、「重大」、「エラー」、または「警告」のいずれかになります。

- イベント名に以下が含まれる

  指定した文字が名前に含まれるイベントを選択できます。

操作

この領域では、アラートがトリガーされた場合に通知するユーザを指定できます。通知方式と通知頻度を指定することもできます。

- これらのユーザーに通知する

  通知を受信するユーザのEメール アドレスまたはユーザ名を指定できます。

  該当するユーザのEメール アドレスを変更し、その後アラートを編集するために開くと、[名前]フィールドは空欄になります。これは、Eメールが変更されたことでユーザとのマッピングが無効になったためです。また、選択したユーザのEメール アドレスを[ユーザ]ページで変更している場合、変更後のEメール アドレスは反映されません。

- 通知頻度

  イベントが確認または解決されるか、廃止状態に設定されるまでの間、管理サーバが通知を送信する頻度を指定できます。

  次のいずれかの通知方式を選択できます。

  - 1回だけ通知する。

- 指定の頻度で通知する。
- 指定の期間に指定の頻度で通知する。

- **SNMP**トラップの発行

  このチェック ボックスをオンにすると、グローバルに設定されたSNMPホストにSNMPトラップを送信するかどうかを指定できます。

- スクリプトを実行

  アラートにカスタム スクリプトを追加できます。このスクリプトはアラートが生成された際に実行されます。

> この機能がユーザ インターフェイスに表示されない場合は、管理者によって無効にされています。必要に応じて、ストレージ管理 > 機能設定 からこの機能を有効にできます。

コマンド ボタン

- 保存

  アラートを作成してダイアログ ボックスを閉じます。

- キャンセル

  変更内容を破棄してダイアログ ボックスを閉じます。

Active IQ Unified Manager でアラートプロパティを編集する

関連付けられているリソース、イベント、スクリプト、通知オプションなど、アラートのプロパティを編集することができます。

Name

この領域では、アラートの名前と説明を編集できます。

- アラート名

  アラート名を編集できます。

- アラートの概要

  アラートの説明を指定できます。

- アラート状態

  アラートを有効または無効にできます。

リソース

この領域では、アラートをトリガーする対象のリソースを選択できます。リソースは個別に選択できるほか、動的ルールに基づいてグループ化することも可能です。ドロップダウン リストからリソース タイプを選択してリソースを検索するか、正確なリソース名を指定して特定のリソースを表示できます。

- 含む

  アラートをトリガーしたいリソースを含めることができます。テキスト文字列を指定して、その文字列に一致するリソースをグループ化し、そのグループをアラートに含めるように選択できます。例えば、名前に「vol0」という文字列が含まれるすべてのボリュームをグループ化できます。

- 除外

  アラートをトリガーする対象から除外するリソースを指定できます。例えば、名前に「xyz」という文字列が含まれるボリュームをすべて除外することができます。

> 「除外」タブは、特定のリソースタイプのすべてのリソースを選択した場合にのみ表示されます（例：<<All Volumes>> または <<All Volumes whose name contains 'xyz'>>）。

イベント

この領域では、アラートをトリガーするイベントを選択できます。アラートは特定の重大度のイベントに対してトリガーするか、一連のイベントを指定してトリガーできます。

- イベントの深刻度

  重大度タイプに基づいてイベントを選択できます。タイプは、「重大」、「エラー」、または「警告」のいずれかになります。

- イベント名に以下が含まれる

  名前に指定した文字を含むイベントを選択できます。

操作

この領域では、通知方式と通知頻度を指定できます。

- これらのユーザーに通知する

  通知の受信者のEメール アドレスまたはユーザ名を編集できます。新しいEメール アドレスまたはユーザ名を指定することもできます。

- 通知頻度

  管理サーバからの通知の送信頻度を編集できます。イベントが確認されるか、解決されるか、廃止状態になるまで、この頻度で通知が送信されます。

  次のいずれかの通知方式を選択できます。

  - 1回だけ通知する。
  - 指定の頻度で通知する。
  - 指定の期間に指定の頻度で通知する。

- **SNMP**トラップの発行

  グローバル設定のSNMPホストにSNMPトラップを送信するかどうかを指定できます。

- スクリプトを実行

  アラートにスクリプトを関連付けることができます。このスクリプトはアラートが生成された際に実行されます。

コマンド ボタン

- 保存

  変更内容を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

- キャンセル

  変更内容を破棄してダイアログ ボックスを閉じます。

スクリプトを管理する

Active IQ Unified Manager でスクリプトを管理する

Unified Managerでは、スクリプトを使用して複数のストレージオブジェクトを自動的に変更または更新できます。このスクリプトはアラートに関連付けられています。イベントが発生してアラートがトリガーされると、スクリプトが実行されます。カスタムスクリプトをアップロードして、アラートが発生した際にその実行をテストできます。

スクリプトをUnified Managerにアップロードして実行する機能は、デフォルトで有効になっています。セキュリティ上の理由から、組織がこの機能を許可したくない場合は、ストレージ管理 > *機能設定*からこの機能を無効にすることができます。

関連情報

"スクリプト アップロード機能の有効化 / 無効化"

Active IQ Unified Manager でスクリプトがアラートと連携する仕組み

Unified Managerでイベントに対するアラートが発生したときにスクリプトが実行されるように、アラートにスクリプトを関連付けることができます。スクリプトを使用して、ストレージ オブジェクトの問題を解決したり、イベントの生成元のストレージ オブジェクトを特定したりできます。

Unified Managerでイベントに関するアラートが生成されると、指定された受信者にアラートメールが送信されます。アラートにスクリプトを関連付けている場合、そのスクリプトが実行されます。スクリプトに渡された引数の詳細は、アラートメールから確認できます。

> カスタムスクリプトを作成し、特定のイベントタイプのアラートに関連付けた場合、そのイベントタイプに対してカスタムスクリプトに基づいてアクションが実行され、デフォルトでは「管理アクション」ページまたはUnified Managerダッシュボードで*Fix it*アクションは利用できません。

スクリプトの実行には次の引数が使用されます。

- -eventID
- -eventName
- -eventSeverity
- -eventSourceID
- -eventSourceName
- -eventSourceType
- -eventState
- -eventArgs

これらの引数をスクリプトで使用して、関連するイベントの情報を収集したり、ストレージ オブジェクトを変更したりできます。

スクリプトから引数を取得する例

```
`print "$ARGV[0] : $ARGV[1]\n"`
`print "$ARGV[7] : $ARGV[8]\n"`
```

アラートが生成されると、このスクリプトが実行されて次のような出力が表示されます。

```
-`eventID : 290`
-`eventSourceID : 4138`
```

Active IQ Unified Manager でスクリプトを追加する

Unified Managerでスクリプトを追加し、アラートに関連付けることができます。アラートが生成されるとこれらのスクリプトが自動的に実行されるため、イベントが生成されたストレージ オブジェクトに関する情報を取得できます。

開始する前に

- Unified Managerサーバに追加するスクリプトを作成して保存しておく必要があります。
- スクリプトでサポートされているファイル形式は、Perl、Shell、PowerShell、Python、および `.bat`ファイルです。

Unified Managerがインストールされているプラットフォーム	サポートされる言語
VMware	Perl / シェル スクリプト
Linux	Perl / Python / シェル スクリプト
Windows	PowerShell / Perl / Python / .batスクリプト

  - Perlスクリプトを使用する場合は、Unified ManagerサーバーにPerlがインストールされている必要が

あります。VMware環境では、Perl 5がデフォルトでインストールされており、スクリプトはPerl 5がサポートする機能のみをサポートします。Unified Managerのインストール後にPerlをインストールした場合は、Unified Managerサーバーを再起動する必要があります。

- PowerShellスクリプトを使用するには、スクリプトを実行するための適切なPowerShell実行ポリシーがWindowsサーバで設定されている必要があります。

> スクリプトでログ ファイルを作成してアラート スクリプトの進捗を追跡する場合は、ログ ファイルがUnified Managerのインストール フォルダ内に作成されないようにする必要があります。

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

カスタム スクリプトをアップロードし、アラートに関するイベントの詳細を収集できます。

> この機能がユーザ インターフェイスに表示されない場合は、管理者によって無効にされています。必要に応じて、ストレージ管理 > 機能設定 からこの機能を有効にできます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ スクリプト をクリックします。
2. 「Scripts」ページで、「Add」をクリックします。
3. 「スクリプトの追加」ダイアログボックスで、「参照」をクリックしてスクリプトファイルを選択します。
4. 選択したスクリプトの説明を入力します。
5. *[追加]*をクリックします。

関連情報

"スクリプト アップロード機能の有効化 / 無効化"

Active IQ Unified Manager でスクリプトを削除する

不要または無効になったスクリプトは、Unified Managerから削除できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。
- スクリプトがアラートに関連付けられていないことを確認する必要があります。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ スクリプト をクリックします。
2. 「Scripts」ページで、削除するスクリプトを選択し、「Delete」をクリックします。
3. 『警告』ダイアログボックスで、「はい」をクリックして削除を確定します。

Active IQ Unified Manager でのテストスクリプトの実行

ストレージ オブジェクトに対してアラートが生成されたときにスクリプトが正しく実行

されるかどうかを確認することができます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。
- サポートされるファイル形式のスクリプトをUnified Managerにアップロードしておく必要があります。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ管理 ＞ スクリプト をクリックします。
2. 「スクリプト」ページにテストスクリプトを追加します。
3. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
4. 「アラート設定」ページで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
アラートを追加する	a. *[追加]*をクリックします。 b. [操作]セクションで、テスト スクリプトにアラートを関連付けます。
アラートを編集する	a. アラートを選択し、*編集*をクリックします。 b. [操作]セクションで、テスト スクリプトにアラートを関連付けます。

5. *保存*をクリックします。
6. 「Alert Setup」ページで、追加または変更したアラートを選択し、「Test」をクリックします。

   「-test」引数を指定してスクリプトが実行され、アラートの作成時に指定したEメール アドレスに通知アラートが送信されます。

サポートされている **Active IQ Unified Manager CLI** コマンドについて学ぶ

ストレージ管理者は、CLIコマンドを使用して、クラスタ、アグリゲート、ボリューム、qtree、LUNなどのストレージ オブジェクトに対するクエリを実行することができます。CLIコマンドを使用して、Unified Managerの内部データベースおよびONTAPデータベースを照会できます。操作の開始時または終了時に実行されるスクリプト、あるいはアラートがトリガーされたときに実行されるスクリプト内で、CLIコマンドを使用することもできます。

すべてのコマンドの前に、コマンド `um cli login`と認証用の有効なユーザー名およびパスワードを指定する必要があります。

um run コマンドを実行するには、アカウントに コンソール アプリケーションへのアクセス権があることを確認してください。

CLIコマンド	説明	出力
`um cli login -u <username> [-p <password>]`	CLIにログインします。セキュリティ上の理由から、「-u」オプションのあとにはユーザ名のみを入力してください。こうすることでパスワードの入力を求めるプロンプトが表示され、パスワードが履歴またはプロセス テーブルに記録されることはありません。セッションはログインから3時間後に期限切れとなり、その後は再度ログインする必要があります。	対応するメッセージが表示されます。
`um cli logout`	CLIからログアウトします。	対応するメッセージが表示されます。
`um help`	第1レベルのすべてのサブコマンドを表示します。	第1レベルのすべてのサブコマンドを表示します。
`um run cmd [ -t <timeout> ] <cluster> <command>`	1つまたは複数のホストでコマンドを実行する最も簡単な方法です。主にアラートのスクリプティングでONTAPの処理を取得または実行するために使用します。オプションのtimeout引数で、コマンドがクライアントで完了するのを待機する最大時間（秒）を設定できます。デフォルトは0（無期限に待機）です。	ONTAPから受け取った情報がそのまま表示されます。
`um run query <sql command>`	SQLクエリを実行します。実行できるクエリはデータベースからの読み取りだけです。更新、挿入、削除の各操作はサポートされません。	結果は表形式で表示されます。返される結果が空になる場合、構文エラーがある場合、または要求が無効な場合は、該当するエラー メッセージが表示されます。

CLIコマンド	説明	出力
`um datasource add -u <username> -P <password> [ -t <protocol> ] [ -p <port> ] <hostname-or-ip>`	管理対象ストレージ システムのリストにデータソースを追加します。データソースは、ストレージ システムへの接続方法を定義したものです。データソースを追加する際は、-u（ユーザ名）オプションと-P（パスワード）オプションを必ず指定する必要があります。オプションの-t（プロトコル）では、クラスタとの通信に使用するプロトコル（httpまたはhttps）を指定します。プロトコルが指定されていない場合は、両方のプロトコルが試行されます。オプションの-p（ポート）では、クラスタとの通信に使用するポートを指定します。ポートが指定されていない場合は、該当するプロトコルのデフォルト値が試行されます。このコマンドは、ストレージ管理者のみが実行できます。	ユーザに証明書の承認を求め、対応するメッセージを表示します。
`um datasource list [ <datasource-id>]`	管理対象ストレージ システムのデータソースを表示します。	以下の値を表形式で表示します：`ID Address Port, Protocol Acquisition Status, Analysis Status, Communication status, Acquisition Message, and Analysis Message`
`um datasource modify [ -h <hostname-or-ip> ] [ -u <username> ] [ -P <password> ] [ -t <protocol> ] [ -p <port> ] <datasource-id>`	1つまたは複数のデータソース オプションを変更します。ストレージ管理者のみが実行できます。	対応するメッセージが表示されます。
`um datasource remove <datasource-id>`	Unified Managerからデータソース（クラスタ）を削除します。	対応するメッセージが表示されます。
`um option list [ <option> .. ]`	setコマンドを使用して設定できるすべてのオプションのリストを表示します。	以下の値を表形式で表示します。`Name, Value, Default Value, and Requires Restart.`
`um option set <option-name>=<option-value> [ <option-name>=<option-value> … ]`	1つまたは複数のオプションを設定します。このコマンドは、ストレージ管理者のみが実行できます。	対応するメッセージが表示されます。
`um version`	Unified Managerソフトウェアのバージョンを表示します。	`Version ("9.6")`

CLIコマンド	説明	出力
`um lun list [-q] [ -ObjectType <object-id>]`	指定したオブジェクトでフィルタリングしたLUNのリストを表示します。-qはヘッダーを非表示にするオプションで、すべてのコマンドで使用できます。ObjectTypeには、lun、qtree、cluster、volume、quota、svmのいずれかを指定できます。 次に例を示します。 **`um lun list -cluster 1`** この例では、objectTypeが「-cluster」で、objectIdが「1」です。このコマンドを実行すると、IDが1のクラスタに含まれるすべてのLUNのリストが表示されます。	以下の値を表形式で表示します。`ID and LUN path.`
`um svm list [-q] [ -ObjectType <object-id>]`	指定したオブジェクトでフィルタリングしたStorage VMのリストを表示します。ObjectTypeには、lun、qtree、cluster、volume、quota、svmのいずれかを指定できます。 次に例を示します。 **`um svm list -cluster 1`** この例では、objectTypeが「-cluster」で、objectIdが「1」です。このコマンドを実行すると、IDが1のクラスタに含まれるすべてのStorage VMのリストが表示されます。	以下の値を表形式で表示します。`Name and Cluster ID.`

CLIコマンド	説明	出力
`um qtree list [-q] [ -ObjectType <object-id>]`	指定したオブジェクトでフィルタリングしたqtreeのリストを表示します。-qはヘッダーを非表示にするオプションで、すべてのコマンドで使用できます。ObjectTypeには、lun、qtree、cluster、volume、quota、svmのいずれかを指定できます。 次に例を示します。 **`um qtree list -cluster 1`** この例では、objectTypeが「-cluster」で、objectIdが「1」です。このコマンドを実行すると、IDが1のクラスタに含まれるすべてのqtreeのリストが表示されます。	以下の値を表形式で表示します。`Qtree ID and Qtree Name.`
`um disk list [-q] [-ObjectType <object-id>]`	指定したオブジェクトでフィルタリングしたディスクのリストを表示します。ObjectTypeには、disk、aggr、node、clusterのいずれかを指定できます。 次に例を示します。 **`um disk list -cluster 1`** この例では、objectTypeが「-cluster」で、objectIdが「1」です。このコマンドを実行すると、IDが1のクラスタに含まれるすべてのディスクのリストが表示されます。	以下の値を表形式で表示します `ObjectType and object-id`。
`um cluster list [-q] [-ObjectType <object-id>]`	指定したオブジェクトでフィルタリングしたクラスタのリストを表示します。ObjectTypeには、disk、aggr、node、cluster、lun、qtree、volume、quota、svmのいずれかを指定できます。 次に例を示します。 **`um cluster list -aggr 1`** この例では、objectTypeが「-aggr」で、objectIdが「1」です。このコマンドを実行すると、IDが1のアグリゲートが属しているクラスタが表示されます。	以下の値を表形式で表示します：`Name, Full Name, Serial Number, Datasource Id, Last Refresh Time, and Resource Key`

CLIコマンド	説明	出力
`um cluster node list [-q] [-ObjectType <object-id>]`	指定したオブジェクトでフィルタリングしたクラスタ ノードのリストを表示します。ObjectTypeには、disk、aggr、node、clusterのいずれかを指定できます。 次に例を示します。 **`um cluster node list -cluster 1`** この例では、objectTypeが「-cluster」で、objectIdが「1」です。このコマンドを実行すると、IDが1のクラスタに含まれるすべてのノードのリストが表示されます。	以下の値を表形式で表示します `Name and Cluster ID`。
`um volume list [-q] [-ObjectType <object-id>]`	指定したオブジェクトでフィルタリングしたボリュームのリストを表示します。ObjectTypeには、lun、qtree、cluster、volume、quota、svm、aggregateのいずれかを指定できます。 次に例を示します。 **`um volume list -cluster 1`** この例では、objectTypeが「-cluster」で、objectIdが「1」です。このコマンドを実行すると、IDが1のクラスタに含まれるすべてのボリュームのリストが表示されます。	以下の値を表形式で表示します `Volume ID and Volume Name`。

CLIコマンド	説明	出力
`um quota user list [-q] [-ObjectType <object-id>]`	指定したオブジェクトでフィルタリングしたクォータ ユーザのリストを表示します。ObjectTypeには、qtree、cluster、volume、quota、svmのいずれかを指定できます。 次に例を示します。 **`um quota user list -cluster 1`** この例では、objectTypeが「-cluster」で、objectIdが「1」です。このコマンドを実行すると、IDが1のクラスタに含まれるすべてのクォータ ユーザのリストが表示されます。	以下の値を表形式で表示します `ID, Name, SID and Email`。
`um aggr list [-q] [-ObjectType <object-id>]`	指定したオブジェクトでフィルタリングしたアグリゲートのリストを表示します。ObjectTypeには、disk、aggr、node、cluster、volumeのいずれかを指定できます。 次に例を示します。 **`um aggr list -cluster 1`** この例では、objectTypeが「-cluster」で、objectIdが「1」です。このコマンドを実行すると、IDが1のクラスタに含まれるすべてのアグリゲートのリストが表示されます。	以下の値を表形式で表示します `Aggr ID, and Aggr Name`。
`um event ack <event-ids>`	1つまたは複数のイベントに応答します。	対応するメッセージが表示されます。
`um event resolve <event-ids>`	1つまたは複数のイベントを解決します。	対応するメッセージが表示されます。
`um event assign -u <username> <event-id>`	イベントをユーザに割り当てます。	対応するメッセージが表示されます。
`um event list [ -s <source> ] [ -S <event-state-filter-list>.. ] [ <event-id> .. ]`	システムまたはユーザによって生成されたイベントのリストを表示します。ソース、状態、およびIDに基づいてイベントをフィルタリングできます。	以下の値を表形式で表示します `Source, Source type, Name, Severity, State, User and Timestamp`。
`um backup restore -f <backup_file_path_and_name>`		対応するメッセージが表示されます。

スクリプトのウィンドウとダイアログ ボックスの説明

Active IQ Unified Manager の [スクリプト] ページについて

[スクリプト]ページでは、Unified Managerにカスタム スクリプトを追加できます。追加したスクリプトをアラートに関連付けると、ストレージ オブジェクトが自動的に再設定されます。

[スクリプト]ページでは、Unified Managerに対してスクリプトを追加または削除できます。

コマンド ボタン

- 追加

  [スクリプトの追加]ダイアログ ボックスが開き、スクリプトを追加できます。

- 削除

  選択したスクリプトを削除します。

リスト ビュー

リストビューには、Unified Managerに追加したスクリプトが表形式で表示されます。

- 名前

  スクリプトの名前が表示されます。

- 概要

  スクリプトの説明が表示されます。

Active IQ Unified Manager の「スクリプトの追加」ダイアログボックス

[スクリプトの追加]ダイアログ ボックスで、Unified Managerにスクリプトを追加できます。スクリプトを使用して、ストレージ オブジェクトに対して生成されたイベントを自動的に解決するようにアラートを設定することができます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

- スクリプトファイルを選択

  アラートに使用するスクリプトを選択できます。

- 概要

  スクリプトの説明を指定できます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。